

「ヤングムスリムの将来設計-学ぶ・はたらく・生きる-」

第7回全国マスジド（モスク）代表者会議の記録

2015年1月31日

December, 2015

早稲田大学アジア・ムスリム研究所

Institute for Asian Muslim Studies, Waseda University

早稲田大学多民族・多世代社会研究所

Institute for Multi-ethnic and Multi-generational Societies, Waseda University

早稲田大学イスラーム地域研究機構

Organization for Islamic Area Studies, Waseda University

目次

序.....	3
編者.....	4
会議運営者.....	4
関連研究助成プロジェクト一覧.....	4
プログラム.....	5
基調講演と寸劇.....	7
パネルディスカッション.....	33
写真と配布資料.....	60

序

本報告書は、2015年1月31日に早稲田大学（早稲田キャンパス）で開催された第7回全国モスジド（モスク）代表者会議「ヤングムスリムの将来設計-学ぶ・はたらく・生きる-」の会議録である。本会議は、2009年に「全国モスク代表者会議」として始まり、2012年に名称を「全国モスジド（モスク）代表者会議」と変更して、継続して開催している。第7回会議は、主催者側を含め約50名近くの参加者がありほぼ例年通りの規模で開催され、充実した報告と活発な議論が行われた。

今回の会議は、日本における第2世代以降のヤングムスリムの将来を考えるという形で展開された。滞日ムスリム・コミュニティは、1990年代初期のニューカマーによるモスク建設の開始の頃から、急速にその存在感を増しており、滞日ムスリム人口約11万人、国内モスク数85カ所以上を擁する規模にまで発展してきた。そのなかで、第2世代をはじめ若い世代の滞日ムスリムも増加しつつある。これからは、コミュニティの継承とそれを担う次世代の成長と活躍が大きな課題と考えられる。本会議録がそのような諸課題の達成に寄与することができれば幸いである。

毎年のことではあるが、会議開催にあたっては、各地域のモスク代表者の方々をはじめ、滞日ムスリムの方々、また一般参加の方々など多くの人たちから多大なご協力をいただいた。また、今回は特に、報告者として、寸劇の参加者として、また一般参加者として、多くの若いムスリムの方々に参加していただく事が出来た。これら沢山の皆様に厚く御礼申し上げ、これからのご協力についても改めてお願いする次第である。

2015年12月

岡井 宏文
店田 廣文
小島 宏

編者

(所属は2015年3月現在)

岡井 宏文 早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

小島 宏 早稲田大学社会科学総合学術院・教授

会議運営者

(所属は2015年3月現在)

小島 宏 早稲田大学社会科学総合学術院・教授

店田 廣文 早稲田大学人間科学学術院・教授

吉村 武典 早稲田大学イスラーム地域研究機構・次席研究員

砂井 紫里 早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手

岡井 宏文 早稲田大学イスラーム地域研究機構・研究助手

関連研究助成プロジェクト一覧

本会議および本報告書は、以下の研究助成による研究成果の一部である。

- ・ 平成27～29年度科学研究費補助金基盤研究 (B)・課題番号15H03417「ムスリム・マイノリティのハラール食品消費行動の関連要因：東アジアと西欧の比較研究」研究代表者：小島 宏
- ・ 「人間文化研究機構 (NIHU) プログラム イスラーム地域研究」 (早稲田大学拠点) 研究代表者：桜井 啓子
- ・ 平成24～26 度科学研究費補助金基盤研究 (C)・課題番号24530669「滞日ムスリムに関する住民意識の3 地域比較調査研究と多文化政策再考」研究代表者：店田 廣文
- ・ 平成27～29 度科学研究費補助金基盤研究 (C)・課題番号15K03886「滞日ムスリムの生活世界の変容とムスリム・コミュニティの持続的発展」研究代表者：店田 廣文

プログラム

第7回マシド（モスク）代表者会議

「ヤングムスリムの将来設計 -学ぶ・はたらく・生きる-

2015年1月31日（土）

於：早稲田大学・早稲田キャンパス3号館801教室

総合司会：早稲田大学イスラーム地域研究機構 吉村武典

- 13:00-13:10 開会の挨拶 早稲田大学アジア・ムスリム研究所 小島宏
趣旨説明 早稲田大学多民族・多世代社会研究所 店田廣文
- 13:10-13:50 基調講演 行徳マシド：前野直樹氏
寸劇 ムスリム素人劇団アヒッバ(信愛の友)
- 13:50-14:40 「ヤングムスリムからの報告」
大辻 麻梨乃
羅者 アルサラーンモハメッド
林 純子
- 14:40-15:10 休憩と礼拝 （14:46 サラート（ASR））
- 15:10-16:20 パネルディスカッション
司会：店田廣文
パネリスト： ハールーン・クレイシ
クレシ・アブドゥルワハブ
カーン・ムハマド・タヒル・アバス
前野 直樹
浜中 彰
永井 彰
- 16:20-16:55 総合討論
- 16:55-17:00 閉会の挨拶 早稲田大学イスラーム地域研究機構 桜井啓子

参考：

MAGHRIB 17:07 ISHA 18:30

礼拝室：

早稲田大学・早稲田キャンパス3号館810、811教室

Program:

The Seventh Meeting of Representatives of Masjids in Japan

"The Life Planning of Young Muslims"

Date : 31 January (Sat) 2015, 13:00-17:00

Venue: Waseda University, Waseda Campus, Room 801, Bldg. 3

General Chair: Takenori YOSHIMURA, WU Organization for Islamic Area Studies

13:00-13:10 Opening Remarks

Hiroshi Kojima, WU Institute for Asian Muslim Studies

Hirofumi Tanada, WU Institute of Multi-ethnic and Multi-generational Societies

13:10-13:50 Presentation by Mr. Maeno Naoki (Gyotoku Masjid)

13:50-14:40 Presentation by young muslims

14:40-15:10 Break/Salat (ASR 14:46)

15:10-16:20 Panel Discussion

Chair: Hirofumi Tanada

Panelists: Representatives of Masjids in Japan

16:20-16:55 General Discussion

16:55-17:00 Closing Remarks

Keiko Sakurai, WU Organization for Islamic Area Studies

Notes :

MAGHRIB 17 : 07 ISHA 18 : 30

ROOM for Salat: Room 810 and 811, Bldg. 3

議事録の作成にあたり、発言内容を損なわない範囲で、語句の追加や修正、余分な語句の削除や説明の追加などを行った。聞き取りの困難なところについては、一部削除したところもある。なお、編者が説明として追加した部分や注記は、() で明示した。

基調講演と寸劇

<吉村> 『ヤングムスリムの将来設計—学ぶ・はたらく・生きる』を開催したいと思います。私は本日総合司会を務めさせていただきます早稲田大学イスラーム地域研究機構の研究者吉村と申します。よろしくお願いいたします。

会に先立ちまして、幾つか注意点がございますので、先にそれを申し上げます。まず第一に本会場および廊下に関しましては、飲食禁止の規定になっておりますが、ペットボトル等のふたが付いているものに関しましては大丈夫でございますので、そういったものをご用意いただければと思います。または廊下の所にラウンジがございますので、そちらでは飲食は可能になっております。飲み物等に関しましては、この建物の 1 階にコンビニエンスストアがございますので、そちらでご購入ください。

二つ目にこちらにも書いてますが、写真撮影とか録音に関しましては、基本的に禁止しております。うちのスタッフが代表して写真とか映像を撮っておりますので、そちらのほうにお問い合わせください。また報道関係、プレスの方に関しましては、プレスカードをご用意しておりますので受付にてお手続きをお願いいたします。3 点目に関しましては、礼拝室のことでございます。プログラムにも書いてございますが、14 時 46 分にアスルの礼拝、17 時 07 分にマグリブ、18 時 30 分にイシャアの時刻となっております。礼拝室は同じフロアをご用意してございます。男性用の礼拝室は 810 を用意しております。811 に女性用の礼拝室をご用意しておりますので、そちらをご利用ください。以上が注意点となります。

それでは早速、会のほうを進めさせていただきます。最初に開会のあいさつを頂戴したいと思います。開会のあいさつは早稲田大学アジア・ムスリム研究所所長小島宏先生にお願いしております。小島先生、よろしくお願いいたします。

<小島> アジア・ムスリム研究所長をしています早稲田大学社会科学総合学院の小島と申します。過去 3 回ぐらいは私どものアジア・ムスリム研究所で会を主催させていただいてたんですけど、もともとそちらにいらっしゃる店田先生も多民族・多世代社会研究所でやっておられたんです。今年はなぜ主催やめたかという理由は幾つかあるんですけど、一つは私がきょうの夕方にフィリピンへ農業実習生、研修生の調査に行くということでありまして。遠方から寒い中皆さまにお越しいただき申し訳ないんですが、私は暑い所へ行って楽しむわけじゃなくて調査をいたしますのですぐ失礼することになると思います。考えてみると、フィリピンももともとは 15 世紀ぐらいまでは完全にムスリムの国でした。

今のところ日本に来る農業研修生、実習生のほとんどは、関東、茨城とか千葉とかにいますけど、フィリピンの方でもクリスチャンが多いと思います。これからは次第にムスリムの方も来られると思いますし、千葉県、茨城県の海岸あたりにはインドネシアの方も多いので、今後は皆さまの所でお世話になる研修生実習生も増えてくると思います。学術的な目的だけじゃないんですが、そういった方々のケアをモスクのほうでも少ししていただけると助かります。

あと午前中はムスリム学生代表者会議というのを9時から12時までやってまして、これは学内のみのイベントなんですが、そこの最後のほうで一つ話題になったことはやっぱりムスリムに対する理解を増やして、イスラムに対する大学の学生の理解を得るためには一緒にイベントかなんかをやるのがいいのではないかという話が出ました。特に京都のほうで、京都モスクがムスリムフードフェスティバルというのを毎年、最近はやってて、去年は1200人ぐらい来たそうです。そこは市長も来たりとかするし、普通の日本人の方も来るということで、私は食べ物に興味があるから言うわけじゃないんですけど、そういうことも考えて。もちろんムスリムの各マスジドではそういう地域のイベントなどで食べ物を出されてると思います。そういうことをあらためて学んだという次第です。

あと3時間、よろしく願いいたします。どうもありがとうございました。

<吉村> 小島先生、ありがとうございました。続きまして、今回の趣旨説明を早稲田大学多民族・多世代社会研究所所長店田廣文先生からお願いいたします。

<店田> ただ今ご紹介いただきました店田でございます。よろしく願いいたします。本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。マスジド代表者会議も今回7回目ということになりました。今回はヤングムスリムの将来設計という形で、これから大人になっていく、あるいは社会に出ていく若い世代のムスリムの方たちについて、お話を皆さんと一緒にしたいという形で開催することにいたしました。ここでわれわれがヤングムスリムというふうに言ってるのは、今申したように主に高校や大学をこれから卒業して社会に船出をしていくような人、あるいは、もう既に社会人になったけど、まだいわば新社会人のような形でいろいろな意味でキャリア形成をしているような若い人たちのことを想定しております。

これまでも代表者会議では教育の問題、特に子どもの教育の問題等がいろんな形で話されてきましたし、議論になってきました。当然日本社会の中での教育の課題ということで、いろんな形で話し合われてきました。今回はこれから船出していく、就職していくような若い人たちに関しても、日本社会という環境の中でどのような課題を抱えているのかということについてもいろいろ話し合っていければと思いますし、ヤングムスリムの方が抱えているいろんな悩みや個人的な課題、そういったものについても話をしていければいいというふうに思っております。

今回はヤングムスリムの将来設計という形で企画をしようということで、昨年の半ばぐらいからいろいろ企画を考えまして、今回このような形で会を開催することにしたわけです。何しろ今年で 7 回目ということで、当初は Masjid 代表者の方をお呼びして各地のムスリムコミュニティーが抱えている課題であるとか、その他もろもろのお話をしていく形であったんですけども、数年たってから今回のようにあるテーマを決めて、会議を開催するという形にしてきました。

従って代表者会議という名前は付いてはいますが、必ずしも代表者の方だけがいろいろ議論に参加する、あるいは登壇してお話をするということではなくて、われわれが重要と考えるテーマについてお話をさせていただく、あるいは議論をする場として代表者会議という場を使ってきております。Masjid 代表者会議という名前もひょっとしたらもう変え時というか、全国 Masjid 代表者会議ではなくて、例えば全国ムスリム会議という、それはちょっと大げさかもしれませんが、そういった名前、あるいは有識者の会議であるとか、そういった名前に変えたほうがいいのかもかもしれません。取りあえず歴史を踏まえてと言いますか、歴史を受け継いで Masjid 代表者会議という名前を今回使わせていただいて、ヤングムスリムの将来設計ということで企画をいたしました。以上のような企画、われわれの考えに基づきまして、きょうの会議の前半では教育の問題、あるいは若者のキャリア形成についてお話をしていくわけです。さてどのような形でやるのがいいかというふうに考えた場合、私たちは今回のプログラムにありますような形で企画を作り、それに適任と思われるような方々にお願いをすることにいたしました。

まず基調講演については、もう何度もこの会議には出ていただいている方で、皆さんこの会議に常連の方はご存じの方ばかりだと思いますが、行徳 Masjid の前野さんをお願いをすることにいたしました。イスラムを大学で専門とされ、またイスラムに関する知識も非常に深い方であると同時に家庭の中ではもちろん父親として、あるいは行徳 Masjid では子どもたちの教育にも非常に熱心に取り組んでいる方です。若者のキャリア形成についても、ご自身が日本の会社で働いてらっしゃるということもありますが、いろいろお話をさせていただくのに適任だということで、今回はまず基調講演の部分を前野さんをお願いしたいということで、設定をいたしました。

そして次はかなり新しい試みなんですけれども、ヤングムスリム自身に今回はお話をいただくパートも設けました。今回は 3 人の方をお願いしました。後でお名前はまた報告の際にご紹介がありますが、公務員の方、それからこれから就職する方、それから若手の弁護士として活躍されてる方。そういった 3 人の方をお願いしてお話をいただくことにしました。このような場でお話させていただくご決断いただいたことに、まずわれわれとしては感謝したいと思います。ご自身の体験、あるいは経験に基づいていろんなお話を伺えるというふうに考えております。

もちろん若いヤングムスリムの方の意見、あるいはお考えが親世代、その周囲の Masjid の大人たちの思っていること、考えていることといろいろ違う面もあるかと思います。

今、青年期を生きている若いムスリムの方たちの考え、あるいは生活のリアリティーとそういうものにぜひ耳を傾けたいというふうに考えております。またこういった話が将来的にはこれから成人していく、若い日本に住むヤングムスリムの方たちの、ある意味で指針となるようなところもあるかもしれません。そういったものについても会議を通して記録していくと言いますか、記録にとどめておいて将来役に立つことがあればいいというふうにも思っております。

今回は3人の方にお話しいただくわけですが、もちろん全国各地に80カ所以上のマスジドが現在日本に既に存在しております。ですから、全国各地の若いムスリムの方たちの生活をお三人の話で代表できるわけではありません。非常に多様な若いムスリムの人たちが全国にいるんだろうと思います。国籍も、あるいは生活環境も、あるいは価値観もいろいろ違うムスリムが、全国各地にいるんだろうと思います。そういった中で、今回はいわば若いムスリムの生活の一端を手掛かりにして、いろいろ後ほどのパネリストを含めたディスカッションの中で議論していくことができれば幸いです。

このような形で今回設定するにあたってはわれわれ企画側のいろいろな考えを受け入れていただいて、講演あるいは報告をしていただくことになった方々、パネリストとして登壇していただく方々については、あらためて感謝申し上げたいと思います。あくまでもこのような形で運営するというのは、われわれの責任において行うことですので、お話をお聞きになって、あるいはパネリストのお話をお聞きになって、それとは違う意見をお持ちのムスリムの方々、その他一般参加の方々もたくさんいらっしゃるとは思います。当然、そのような意見があつてこそ健全な日本のムスリムの社会だというふうにも思います。

ただわれわれの責任でこのような形で会議を設定させていただきますので、どのような意見もわれわれとしては同じ重みで受け取る形で、この会議は運営していきたいと思えます。あくまでも限られた時間の中でやることですので、また毎年われわれがテーマを設定してやることですので、そういう点では至らない点もあるかもしれません。そういうことも含めて、いろいろ議論を重ねていければ幸いです。

最後になりますが、これは言わずもがなのことなんですが、一応早稲田大学としてモスク代表者会議を2009年から開催させていただいております。当然ですがけれどもこの場が出るさまざまな意見あるいはお考えは、早稲田大学として何かこういったことを言っているということではもちろんございません。その辺は分かりきったことなんですけれども、あらためてわれわれはどのような意見にも与することはありませんし、どのような意見も受け入れないということはありません。受け入れないと言うと変ですが、この会議の全ての記録は毎年議事録の形で公開しておりますので、いろいろな意見が出ていることは皆さんのご承知のとおりです。

ただこのような会議が日本のムスリムコミュニティーにとって、日本のイスラム社会全体にとっていろいろなインパクトを与えることがあるかもしれませんし、そうでないかもしれません。しかしいずれにしても、われわれとしては会議を通じて、日本のムスリムコミ

ユニティーが抱えている課題や今後の将来の課題について話し合う場を提供するとともに、子どもはもちろん研究という面も含めて、今後もムスリムコミュニティーの人たちと一緒に会議が設定できればいいというふうに考えています。ただあくまでもこれは一つの大学としての会議の設定であって、それ以上でもそれ以下でもないと言いますか、そういったところもございますので、その辺りはあらためて申し上げておきたいと思います。

長くなって申し訳ありませんが、以下、基調講演、それからヤングムスリムの方のご報告という形で続いていきますので、ぜひ多様な意見、お考えに耳を傾けていただき、またその後が続くディスカッションの場でも、ぜひ積極的に発言をいただければと思います。以上で私の趣旨説明は終わりにしたいと思います。ありがとうございました。

<吉村> 店田先生、ありがとうございました。前半はアスルの礼拝に間に合わせなければいけませんので、早速基調講演のほうに移らせていただきます。趣旨説明にもありましたように基調講演は、行徳マシドの前野直樹さんをお願いしております。前野さん、よろしく願いいたします。

<前野> 皆さん、こんにちは。アッサラーム・アレイクム。基調講演ということで、私の発表は 2 部構成からなっております。一つはお話、もう一つは寸劇です。寸劇につきましては、面白おかしく分かりやすくイスラムを伝えられたらという願いで始めたのがきっかけです。加えて、子どもたちにも参加していただく機会がございまして、そこでロールプレイをしてもらうことで子どもたち自身にも、より肌身をもってイスラムの教えを感じていただけたらという願いを込めてやっているものです。本日皆さんにお見せする寸劇は、非常にタイムリーなホットな話題も込められておりますので、ただいかんせん練習不足、ほとんどぶっつけ本番でございますので、その辺は笑ってご容赦ください。

では、私のお話からまず入ってまいりたいと思います。イスラム的視点からのキャリアということで、今後私に続く 3 人のお若い発表者の方々のお話を聞いていただく前に、イスラム的なものさしを、ことキャリアに関するイスラム的なものさしを皆さんにお話ししようというものです。レジュメのほうは、皆さんお手元に渡ってますでしょうか。時間が押せ押せでございますので、かなり巻いてやってまいります。講演内容はざっとこんな感じですよ。お願いします。まず出発点はどこかということからお話ししたいと思います。

ことキャリアはキャリアでも、ムスリムのキャリアに関するお話ですから、ムスリムの世界観を踏まえていただかないとなりません。一体ムスリムはどんな世界観でもって生きているのか。非常に簡単な分かりやすい世界観ですけども、はっきりとご理解いただいております。おかなければならないのは、この世だけではないということです。ムスリムはこの世とあの世、限られたこの世と永遠に続く終わりなきあの世、この二つの世界観を持って生きております。

キャリアってさまざまな意味があるかと思いますが。それを考える本人にとってさまざま

な意味を持つでしょう。大体どこから入っていくものでしょうか。ざっと想像してみても、世間体を気にしてとか、家族のためとか、社会のためとか、ムスリムの究極的な目的としてはアッラーのためにと、唯一の神さまのためにとという目的でもってキャリアを考えるものです。実は私自身も、と言いますか、私自身はうら若き 18 歳にして仏教からイスラムへと改宗したものですから、まさにキャリアプランの将来設計のまっただ中を生きてきたと言いますか。取りあえず入信はした、改宗した、でも将来的にどんな職業に就きたいとかそういった具体的な将来の自分のキャリアに対するビジョンは当時 18 歳の私にはありませんでした。ただ強い気持ちとして認識できたのは、少しでもよりよきムスリムになりたいという気持ちでした。そこで思い付いたのが、本当に思い付きです。一体少しでもよりよきムスリムになるにはどうしたらいいんだろうということで考えが至ったのが、アラビア語かと。アラビア語を勉強すれば、アラビア語をマスターすれば、よりよきムスリムになれるかもしれないということで。

今でこそ NHK のアラビア語講座とかさまざまにアラビア語を自習独学するツールにあふれるご時世になってきましたけれども、当時はまだ東京の外大、大阪の外大、大阪の外大は大阪大学に吸収合併されてしまってますけれども、しかなかったご時世です。私も何とか頑張りまして大阪の外大に入りました。そしてアラビア語を専攻するに至ったわけです。そのような変遷を経て、いざ就職する段階になりました。就職する段階になって、そこでやはり家族のためということを考えてわけです。自分としてはより深くイスラムを勉強したいという気持ちは否めませんでした。でも私の両親はいわゆる普通の日本人なわけですから、当然世間体も気にしますし、息子に人並みの普通の職に就いてもらいたいという気持ちが強くあったわけです。

成り行きで大阪の貿易会社にまずは入社したわけです。詳しくはいいですけども、1 カ月半の超スピード退社をしまして、そこで名古屋に戻りました。出身が愛知ですので。そこできょうこちらにもディスカッサントとしてお越しのクレシさん。実はクレシさんは私が人前で正式な信仰告白をした証人になってくれた方のお一人でして、クレシさんに快くうなずいていただいて、当時まだできて 1 年足らずの名古屋モスクの事務職として雇っていただくようになったわけです。そしてほぼ在籍期間は 9 カ月、正味 6 カ月ぐらいしかいなかったんですけども、シリアのダマスカスに留学するようになりました。2006 年の 9 月には日本に戻ってきて、そして日本の一般企業で、石油開発会社ですけども、勤めるようになって今に至ります。

大学の頃、キャリアプランを考えたときに私が最初に希望したのは、当時いろんなムスリムと触れ合う中で感じるようになった義心です。憤りの念が最初にありました。なぜって、いろんなムスリムがいるのは皆さんご存じのとおりです。私が出会っていったムスリムの中には、本当にもうこの世のためだけに日本にいて、ビザ目当てで日本のいたいけな女性をそれこそだまして結婚してのうのうと生きてるような、もうこんな連中、許しておけないというような憤りの気持ちから、「よし、じゃあ僕がそういった連中を全部しょっぴ

いてやる」ということで警察官になろうという気持ちすら抱きました。でもそんなことを大先輩のムスリムのお兄さんに打ち明けたところ、「いや、それはやめとき」と軽くたしなめられました。「そんなことをしたらムスリムの間に、同胞の間に、不吉な混乱を来すことになるからやめときなさい」、「ああ、そんなもんですかね」ということで、あえなく諦めました。

次は、私自身人を喜ばすことが好きです。親との、特に父親とのコミュニケーションの数少ない手段の一つである摩、マッサージをするというのがずっとありました。またオーストラリアのメルボルンで出会った合気道もあって、東洋医学に関心を抱くようになって、この道で、東洋医学でムスリムとしてやっていけないだろうかという希望も抱くようになりました。でもそこでまた壁を見いだしてつぶれたわけです。いやだって、あん摩師とかそういう施術師になると当然、女性に触れることになります。よろしくないですね。ということで、諦めました。という感じで、さまざまな気持ちや状況やクライテリア、基準をもって、人はキャリアを考えるのです。私もそのとおりでした。

イスラミ的な視点ってなんでしょうか。イスラムというのは礼拝とか、断食とか、巡礼とかチャリティー、施しとかそのような目に見える形から、もうそれと分かる宗教儀礼だけのことを言うのではありませんね。そうじゃないです。イスラムってもっと広くて深いものです。人の生きる道全てを言うものです。なので、日常的なことも一切合財含めてイスラミ的なことになり得るんですね。世界的に古典的な教科書として知られるイスラム世界に広まっているものに、アン・ナワウィー先生、ダマスカス郊外にあるナワ村出身のナワウィー先生という人が、ハディース学者が、預言者の言行録の学者がまとめた『40のハディース』という教科書がございます。

それプラス、預言者の言行録の筆頭に上げられるのは、アル・ブハーリーという大学者ですけれども、その先生もしかり、さまざまな預言者の言行録に携わる伝承録、言行録の一番に上げられる伝承というのがあります。それは全て私たちの気持ちに関わることなんです。インナマー・アルアアマル・ビンニヤート・ワ・リ・クッリムルウ・マー・ナワー。誠に全ての行いは、気持ち次第であると。人はその意図したものを得るのだと、いうものでして。本当に一見イスラムとは無関係のものであれ、見聞きする全ての物事どこをどう捉えたらイスラミ的になり得るのかというのが、イスラミ的な視点というものです。

私たちを取り囲むキャリアの世界と言いますか、日常生活の中にはさまざまなこうした選択が待ち受けています。信仰については、私やここにいらっしゃる何人かのような入信ムスリム、改宗ムスリムだけではなく、いわゆる先輩たち、ボーンムスリムとされる人たちもその成長過程において、自分はあらためてムスリムとして生きていくんだという再選択と言いますか、再認識と言いますか、そのような信仰の選択の過程を必ず経ているはずです。そうじゃありませんか。ですよ。そうしないと、本物になりませんから。その意味で信仰も大事な選択の一つです。私も18で入信してさまざまなこうしたハードルと言い

ますか、飛び越しては、飛び越しては、飛び越しては、ついには転んだこと何回もありませんけども、そのようにさまざまな選択を毎日しています。

では、ここでご紹介したいムスリムにとっての選択時の大事な基準です、大事な助けです。すいません。アラビア語がズラッと書いてありますけども、要するに上にあります人に相談し、アッラーにお伺いを立てること、これがポイントなんです。ここのアラビア語のテキストは、イスティハーラ、お伺いのお祈りというものを伝える語句でして、全能のアッラーを前に礼拝をささげて、二セットの礼拝をささげて、そして祈るわけです。全能のお方たる唯一の神様を前に、その神様の全知を強調し、いかに私が知らないか、そしてまた全能を強調していかに神様にはなんでもできるけども、私には何もできないか。その上でもし、かくかくしかじかのことを、誰々さんと結婚することが、どの道に行くことが、私にとってよいことであるならば、それをたやすきものとしてくださいと。預言者ムハンマド様のお言葉に（アレイヒサラーム）「イスティハーラする人は失敗しない、相談する人は後悔しない」というものがあります。

大事なものは、この3点です。私の信仰にとって、また私の毎日の生活、この世の生活にとって、そして私の行く末にとってよきものであるならば、どうか事をたやすくし、私が願うとおりにしてくださいと。もしそうでないならば、どうかそれを私から遠ざけてください。そして別のものを私にあてがい、またそれによって私を満足させてください。そのような祈りです。そんな中、これ。誰も笑ってくれませんね。ムスリムにとっての障害物です、障害的な存在。これはシャイターン、悪魔と言います。イスラムでは悪魔は、人間の血の巡りのようにずっと付きまとっていて生涯離れることがないと、どこにでもいると言います。本当にいわゆる妖怪的な悪魔もいれば、人の姿をした悪魔もいると聞きます。ですからどんなに信仰深くても、その人は悪魔のささやき、我欲との戦いから逃れることはできませんので、常に心を清めるということが大事になってくるわけです。

クルアーンの助言がここにあります。マー・ハラクトゥ・アルジン・ワルインス・イッラー・リヤブドゥーナ。クルアーンではイスラムでは人が生きる目的というのをはっきりと示されています。それはただアッラーにお使いするためと。自己実現という言葉、この日本でもよく聞きます。私もよく聞かされて育ってきました。そして世間一般では、自己実現を果たすことがまさに成功者の道だというように語られています。でもイスラムでは、それはまやかしなんです。単なるこれは心理学用語の一つで、イスラムではこれは受け入れられません。なぜって、自己実現その言葉が表しているように自分を甘やかして、自分を放っておけばもう固体化して終わらない自我というもの、それを實現してどうするんですか。アッラーから遠くなるばかりです。

預言者ムハンマドは後世に残すものについて、人は死んでしまうと三つのことを除いては全部その人の行いは途絶えてしましますと書かれています。一つは永久に続く施し。もう一つは、後世役に立つ知識。そして三つ目は、個人のために祈ってくれる子孫です。加えて何かよいことを自分が始めれば、よいことを真似した人のご褒美も得られるんですと。

一方で悪いことをしてしまうと、悪いことを真似した人の罪も負ってしまうことになりま
すということで、いかにパイオニアとか改革者、その道の先駆者になることが大事かとい
うことも説かれるわけです。

皆さん、よくご存じのとおり、特に私よりも若い人たちに向かってのメッセージですけ
れども、大事な今は今これからです。とにかくよいインプットをたくさんしてください。
よいインプットがない限りは、よいアウトプットはできないですから。世間一般にたくさ
んのいわゆる有名なイスラム世界でも有名な先生、マシャーイフがいますね。長年ずっと
活躍しておられる先生であればあるほど、やはりいいインプットを若いうちにされてるん
ですよ。そうでない人は、一时有名になるけどもすぐ消えてしまう。皆さん、特にダブル
の方結構いらっしゃいますね。そんな方、皆さんには他の人、一般の日本人にはない強み
がある。それをぜひ生かしてください。

ということで最後私がハッジに、巡礼に初めて行ってもの見事にハッジ風邪にかかっ
て 1 週間の入院を余儀なくされたときに会った伝承をご紹介します。イグタナ
マ・ハムサン・カブル・ハムスィン。五つの前を、五つのものの前に生かしなさい。シャ
バーバカ・カブル・ハラミカ。老いの前の若さを。シッハタカ・カブル・サカミカ。病の
前の健康を。ファラーガカ・カブル・シュグリカ。忙しくなってしまう前の余暇を。ギナ
ーカ・カブル・ファクリカ。そして貧しくなってしまう前の富を。ハヤータカ・カブル・
マウティカ。そして死の前の生を、というものです。ご静聴ありがとうございました。そ
れでは寸劇のほうに移りたいと思います。

≪寸劇パート はじめ≫

寸劇については、登場人物名を記した(配役については、寸劇の最後に紹介がある)。

<ヤングム> アッサラーム・アレイクム。

<サフィーヤ先生> アレイクム・サラーム。

<ヤングム> 先生、ムスリムの先生だからこそ何も隠さず正直に話したいと思いますが、
とにかく僕はウンマのために役立ちたいんです。

<サフィーヤ先生> なるほどね。ヤングムくんは、イスラムの共同体のために何かをし
たいのね。マーシャッラー。それは素晴らしい志だわ。具体的な方向性は見いだしたの。
どんな分野で貢献したいのかしら。

<ヤングム> いえ、それがまだ僕にはよく分からないんです。一体僕に何ができるのか
も、自分が何をしたくて、何をすべきかもはっきり分からない状態なのです。

<サフィーヤ先生> マーシャッラー。正直なところは、あなたのよいところの一つね。世間一般ではあなたくらいの年頃の男の子たちは、大抵女の子にもてることや有名人になったり、お金持ちになったりすることを望むものだけだ。あなたは日本で育ってきて、周りからそうした影響は受けなかったの。

<ヤングム> 全然そうした憧れがないと言ったらうそになります。しかし、どうにでもコントロールできるほど小さなものです。アルハムドゥリッラー。お優しきアッラーがクルアーンと礼拝を通じて私を守ってくれました。

<サフィーヤ先生> マーシャッラー、先生に年頃の娘がいたら、あなたに嫁がせたいぐらいの好青年ね。分かりました。では先生からの助言としては、あなたの見識を広めたり勉学を深めるためにも、このまま高田馬場イスラム大学の伝統イスラム学科への進学をお勧めします。

<ヤングムの母親> 先生、いろいろとご指導ありがとうございます。最後にインシャッラー、息子が進学したら、在学中に心に留め置くべき目標についてアドバイスをいただけますと幸いです。

<サフィーヤ先生> お母さまもご存じのとおり、私たちムスリムにとって一番のロールモデルは預言者ムハンマド様です。在学中はぜひかの人を延長線上に思い描きながら、より身近なロールモデルを探すことをお勧めいたします。

<ヤングム> なるほど。ありがとうございました。ジャザークム・ッラーフ・ハイラン。

<ナレーター> 申し遅れましたが、ただいまの第 1 幕は、新高田馬場イスラム大学付属高校 2 年 3 組の親子進路相談会での場面でした。続いて第 2 幕に入ります。新高田馬場イスラム大学での大学の教室で、というセクションです。

<ヤングム> アルハムドゥリッラー。アッラーに祈りながら頑張って勉強した甲斐あって、無事に希望どおりの進学ができたぞ。あつ、僕が通っていたのは付属高校だから、頑張らなくても入れるんだっけ。とにかくアッラーに感謝。それから両親に感謝しなくちゃ。

<ターリク先生> アッサラーム・アレイクム・ワラフマトゥッラー・ワバラカトゥ。きょうは、インシャアッラーターアラー、アラビア語の授業を始めたいと思います。よろし

くお願いします。授業を始める前に、どうしてアラビア語は必要でしょうか。皆さん、イスラムのことをもっと勉強したい、理解したい方がいると思うんですけど、どうですか。アラビア語が分からずに勉強できると思いますか。それは違ってると思います。クルアーンは、唯一の神さまの言葉は何語ですか。アラビア語ですね。そしたら預言者ムハンマド様（サッラッラーフ・アライヒ・ワサッラム・ワアーリヒ）は アラブ人で、アラビア語でしゃべっていたんですね。なので、言った言葉としてクルアーンの言葉を分かるために、アラビア語を勉強しないと理解できないかもしれないですね。

もう一つ言いたいんですけど、アラビア語クルアーンはいつからできたんですか。1400年前ぐらいですね。他の言葉で言うと、例えば日本語でもそうだし英語もそうだし、100年 200 年前に書かれた本はどうですか。今は読めますか。読めないですね。だけどアラビア語ならば、1400 年前に書かれた本、今でも普通に読めますよ。なので、ちゃんとイスラムのことを勉強したい方は、ぜひアラビア語を勉強してください。頑張ってください。でもよく言われるんですけど、アラビア語は難しいんですよ。だけど今日は、一つのアラビア語の特徴を紹介したいと思います。それを分かると非常にアラビア語の簡単どころが分かると思います。

これ、「カタバ」。日本語で「書きました」っていう意味です。真ん中にアリフを入れると、一つの文字を入れると、言葉はちょっと変わって、意味は筆者になります。やっぱり筆者は書きますね、仕事は。そしたら二つの文字を入れると、手紙になります。マクトゥーブですね。つまり語根、ルートですね。アラビア語で一つのルートから、語根からたくさんの言葉を作ります。そのルートをちゃんと覚えると、たくさんの言葉を、語彙を増やしやすい言葉であると思います。なので、皆さんも頑張ってアラビア語を勉強しなさい。よろしくお願いします。

<ナレーター> ヤングムは、このナマのアラビア語の授業のはずだったんですけども、日本語でやってくれました。スブハナッラー、この素晴らしい授業を聞いて、このように思ったようです。スブハナッラー、すごいな、これがクルアーンの言葉か。この先生の雰囲気もとてもいいよな。

<ヤングム> アルハムドゥリッラー、さっきの授業はいい刺激になったな。確か、次は隣の教室で今年付属校から移籍されたという弁護士先生だな。行ってみよう。

<サフィーヤ先生> よきムスリムはよき市民です。ムスリムは住んでいる国の法律に従うことはもちろん、イスラムに反しない限り、その国の文化や慣習も尊重すべきです。そのためには、日本のようなムスリムがマイノリティーである国では、個人個人のムスリムがイスラムについての知識を深めることが重要です。イスラムについての知識があつて初めて、文化や慣習のどの部分がイスラムに反し、どの部分が反しないのか、区別を付ける

ことができるからです。今後より多くの外国人ムスリムが日本に来ることが予想されます。これ自体は当然喜ばしいことです。しかし日本のムスリムが、イスラムの知識をしっかりと固めていないと、ムスリムであることを日本人らしさをなくすことと勘違いしたり、いろいろな人から異なることを教えられて混乱することになってしまいます。

また外国から来たムスリムにとっても、日本にルーツを持つムスリムがしっかりとしたイスラムの知識を持つことは、どの範囲で日本の文化や慣習を尊重すべきなのかや、他の日本人との関わり方を学べることになるので重要なことです。

<ナレーター> ヤングムはお世話になったサフィーヤ先生がその移籍した弁護士先生本人だということを知りあ然としながら、こう思いました。マーシャッター、サフィーヤ先生ってこんなかつこいい先生だったんだ、と。お集まりの皆さん、ご明察のとおりこうしてヤングムは教師という聖なる職業、聖職への憧れを高めていったのでした。続きましては、第3幕「自称カリフ国シャイフと」です。

<ヤングム> 新高田馬場イスラム大学のいいところは、3年次には自分の専攻に関わる留学先であれば、どこの教育機関であれ自分の単位を認めてくれること。僕は伝統イスラム学最後の牙城と呼ばれるイエメンにやってきました。

<案内人> おっ、サラーム・アレイクム。

<ヤングム> アレイクム・サラーム。

<案内人> ようこそ、ようこそ。アフラン・ワサフラン。君は、ここへ何をしに来たんだい。

<ヤングム> 伝統イスラム学を学びに来ました。

<案内人> なるほど。伝統イスラム学。よし、ならば、この国の一番のシャイフのもとへ連れて行ってあげよう。

<ナレーター> ヤングムは幸か不幸か、生まれてこのかた良いムスリムとしか出会ったことがなかったため、人を疑うということを知りませんでした。むしろ幸先の良いアッラーのご配材と喜んで同行したのです。

<自称カリフ国シャイフ> アッサラーム・アレイクム、マン・イッタバア・アルフダー。マーシャッター、マーシャッター。そなた、よく来たな。そなたは何を求めてやってきた

のじゃ。

<ヤングム> 伝統イスラム学をご指導くださる師匠を求めてきました。

<自称カリフ国シャイフ> そもそもなんのために、伝統イスラム学を学ぶのじゃ。

<ヤングム> それは自分の信仰の原点を学び、自分がウンマにどのように役立つか見極めるためです。

<自称カリフ国シャイフ> おおー、マーシャッラー、アクバラカ・アッラー。ならば、喜ぶがよい。カリフ国は既に確立されたのじゃ。王様の、アラビア半島にまたがるカリフ国の一員となるのだ。

<ヤングム> スブハナッラー、そうなんですか。それは驚きました。カリフ国家の再興だなんて夢物語でしかないと思ってました。では、僕もぜひ。あつ、ちょっとお待ちください。一応故郷には家族がいますので、親の許可を得てからにします。

<自称カリフ国シャイフ> よかろう、よかろう。親子とはムスリムにとって、大切な仕組みです。ただしもし万が一の場合、都合がつかなくなった場合は他言無用とするもの。

<ナレーター> このようにして、自称カリフ国シャイフとの出会いを経たヤングムは一路日本へと戻るのです。続きましては、最後第4幕「リーマンシャイフとそれぞれの道」です。

<ナレーター> 無事イエメンから帰国したヤングムは、カリフ国との約束を果たせないまま就職活動にも打ち込むことができず、迷いの日々を過ごしていました。それもそのはず、帰国後の半年間の間に世界情勢は大きく変わり、アラビア半島でカリフ国が勢力を誇るようになり、信じ難いほどの残虐行為がそのカリフ国の手で行われていると報じられるようになったからです。

<ヤングム> ああ、もう分からない。僕がイエメンでお会いしたシャイフはあんなにも敬虔そうで、正直そうで、優しくなお方だったのに。いや、きっと別のカリフ国を言っておられたに違いない。いや、でもアラビア半島に広がると言っておられたから、同じカリフ国のはず。なのに、人の心を軽んずるようなイスラムの教えではあり得ないようなことばかりをしているなんて、僕は本当のイスラム共同体で、本当のムスリムのリーダーにお使いしてお役に立ちたかったのに。

<リーマンシャイフ> アッサラーム・アレイクム。あの、シャイフとかイスラムとか聞こえてきたんですけど、ひょっとしてムスリム？

<ヤングム> ワレイクム・サラーム、そうです。

<リーマンシャイフ> マーシャッラー、サラーム・アレイクム。それは素晴らしい。実は私もムスリムでしてね。18の頃に改宗したから、もうかれこれ21年がたちます。どうですか。同じムスリム同胞としてよかったら相談に乗りますけど。

<ヤングム> ぜひともお願いします。

<チンピラA> 最近はやりの、リアルなゲームやるか。

<チンピラB> いや、それにしても明らかにおじさんだよな。

<ヤングム> いや、ちょっと...

<チンピラA> おい、おまえ、ちょっと金貸してくんない？

<ヤングム> えっ。

<リーマンシャイフ> 断る。おまえたちに貸すような金はない。

<チンピラA> え、何だと、こら。

<リーマンシャイフ> 変身。

<チンピラB> え、何だそれ。

<リーマンシャイフ> リーマンシャイフ、見参。

<チンピラA> うわー、くそ。覚えてやがれよ。

<リーマンシャイフ> またね。

<ヤングム> あ、あなたは一体。

<リーマンシャイフ> いや、これはこれは、お恥ずかしいところをお見せしましたね。私はサラリーマンをしながら、ときどきイスラムの講義などを行っているリーマンシャイフです。もちろん自称ですけども。ところでヤングムさん、あなたはあまりにも非現実的な世界にロールモデルを求め過ぎてます。カリフ国での聖戦士ムジャーヒドになりたかったんですか。あれは自称カリフ国以外なんでもないでしょう。イスラムとは真逆なこと、ひどいことばかりをしている。君もムジャーヒドの本当の意味を知っているでしょう。アッラーの道のために懸命な努力をする人、そうである以上、この日本でも立派にムジャーヒドになることはできるのですよ。

周りをよく見てください。今日こうしてここにお集まりの皆さんの中には、長年サラリーマンをして定年後にイスラム活動にボランティアで勤しんでおられる人、中古車業で財を成して、その富を惜しみなくアッラーのためにチャリティー活動に費やしておられる方、大学講師、研究員、普段サラリーマンをしながら余暇にイスラムの活動をしている人、自営業の方、弁護士、消防士さまざまです。素晴らしいロールモデルばかりじゃないですか。至高のアッラーはなんて仰せられていますか。アウーズ・ビッラーヒ・ミナッシャイターニッラジーム。ビスミッラー・アッラフマーン・アッラヒーム。タバーラカ・アッラズィー・ビヤディヒ・アルムルク・ワフワ・アラー・クッリシャイイン・カディール。アッラズィー・ハラカ・アルマウト・ワルハヤート・リヤブルークム・アイユクム・アフサン・アマラ・フワラズィーズ・アルガフル (Q 67:1-2)。かのお方にこそその王権の全てが属する方である。称えあれ。汝らのうち、誰の行いが最も素晴らしいかを試すために死と生をお創りになさったお方とされています。もちろん行いというのは、ムスリムにとってはクルアーンとスンナにのっとっている必要があります。でも大事なのは、この現実という地に足を着けて信仰とともに生き抜くこと、次代へとつないでいくことです。だからそういった意味で、ここにいる多くの人は皆さんが素晴らしいロールモデルだと、大事なのは自分が与えられた、自分が生かされている場所、時代、境遇、その中でいかに全力で懸命にアッラーがお喜びになるような道を生きていけるか、そういったことです。

<ヤングム> そうか。そうなのですね。

<リーマンシャイフ> そう。だから自分の内側に、地上におけるアッラーの代理人たるカリフ制を内側に確立しないうちは、カリフ制再興などという金科玉条に惑わされてはなりません。イスラムでは目的は手段を正当化することはないのですから、正しい手段を踏みつつ現実を大事にしていくことが何よりも大事なんです。

<ヤングム> 分かりました。ご指導ありがとうございます。

<リーマンシャイフ> これ私の連絡先ですから、もし何かあったら気軽に連絡ください。

<ヤングム> 助かります。ジャザークム・アッラー・ハイラ。ワレイクム・サラーム、サラーム・アレイクム…アルハムドゥリッラー、ようやく僕の目も心も晴れてきた気がする。早速気持ちを入れ替えて就活に頑張るぞ。あっ、婚活も始めなきゃね。

《寸劇パート 終わり》

<前野> ありがとうございました。簡単にキャストを紹介させていただきます。1人何役もやらせていただきましたけども、進路相談でかつまた弁護士の先生をされたのがサフィーヤ林さんです。ご主人のアブドゥルマティーンさん、自称カリフ国のシャイフ役とあとチンピラをやっていただきました。あとアラビア語の先生とチンピラをやっていただきました、それからイエメンでの案内人役をやってもらいましたターリク・ファタヤーニさんです。それから主人公、皆さん気付いてもらえました？ベタなネーミング、ヤングムです。ヤングム・スリムと言います。ムスタファ角岡さんです。進路相談のときに親御さんをやっていたいただきました奥さまのハナーン角岡さんです。皆さん、どうもありがとうございました。

<吉村> 前野さんおよび出演者の方、どうもありがとうございました。続きまして、これも新しい取り組みなんですけど、ヤングムスリムの方からご報告をいただきたいと思えますので。大辻さん、羅者さん、林さん、すいませんが前のほうに最初にお集まりください。大辻さん、羅者さん、林さんの順番でお願いします。

<吉村> ヤングムスリムからの報告では、大辻麻梨乃さん、羅者アルサラーンモハメッドさん、林純子さんのご三名にご報告をいただきたいと思えます。若干時間が押しておりますので、お一人10分程度でご報告をいただいた後、時間が許す限り皆さまからの質問等受け付けたいと思えます。まずはお座りください。では最初に大辻麻梨乃さんからご報告をいただきたいと思えます。大辻さん、お願いいたします。

<大辻> アッサラーム・アレイクム・ワラフマトゥッラー・ワバラカトゥ。私は今まだ大学4年生で、ちょうど就職活動をこの夏に終えたので、自分の体験してきた就職活動とかそれに伴って考えたことなどを話させていただけたらと思えます。私は2011年4月にこの大学に入学して、その翌年の5月にイスラムにシャハーダして入信しました。その後、それこそ最初の1年なんかは割合モスクでやっている勉強会とかも割合行けたりとか、あるいはこれまで自分が関わったことのない中東地域とか、あとは中央アジアの方々とかと

知り合えて、イスラムにもますます引かれて楽しい日々を過ごしていたのですけれども、大学 3 年生になってやはり進路のことを考えなくてはならないとなった際に、とても悩みました。

考えた進路なんですけれども、まず大学院に進むこと、あるいは一度は多分ムスリムの方は憧れたことあると思うんですけれども、アラビア語とかイスラム関連のことを勉強して留学に行く。あるいは就職する、あるいは結婚とかも、もしかしたら考えられるかもしれないと思っていたのですけれども、やはり両親とか社会的なものとかを感じて、ひとまず就職しようと決めました。就職活動についてなんですけれども、私は説明会とか面接とかもヒジャブをしたまま行きました。また大手企業とかも含めて、ヒジャブをした写真でも結構面接まではどこの企業も進めました。

そもそも私はムスリムであるという以前に、ちょっと対策が不十分だったこともあって、4月の面接ラッシュが終わった段階では内定はいただけませんでした。面接で聞かれたことなんですけれども、一つは例えばイスラムに改宗しているようだがその理由は何とか、その教えの中で日本社会に活かそうなものはあるか、あるいは日本の学校教育で変えたほうがよいところはあるか。あるいは、私は個人的に中東地域に行ったこともあるので、その地域に行ったようだが、向こうで服を売るならどのような服が売れるだろうかとか、その理由などを聞かれました。これ両方とも商社だったのでお気付きかもしれないんですけれども、どの商社の面接でもイスラムとかイスラム諸国関連の話題が出されたんですけれども、逆に言うと、他の企業においてはそれについては触れられはしませんでした。

あと今、商社などと言っていたのでお気付きかもしれないんですけれども、漠然と就職先を考えたときにやはりムスリムであるし、中東地域とビジネスをやっているような商社とか、あるいは石油とか関連の会社とかそういう所や、あるいは自分のポリシーと合っているような、例えばメーカーであれば食品とかそういう所、食品でもものによりますけれども、を中心に受けていたのですけれども…。考えてみたら、自分は商社で働けるような気もしないし、最終的に振り返ると決まらなかったのは私にとってよかったのかとは思いますが。4月の面接ラッシュが終わったときに、大手の企業から内定をいただけなかった私が考えたのは、一つの選択肢はハラール商品関連の会社を中心に探すとか、あとはこのまま就職活動を続行するか、あるいは(スライドの)3でスカーフをしなくてみて就職活動してみるっていうのがあります。

スカーフをしなくて書いたのは、自分は面接でスカーフをしているのに、「宗教(の信仰)があっても、日本社会にフレキシブルに対応できます」みたいな話をしていたのですけれども。ある人に「スカーフをしているっていう時点で、もう日本社会にフレキシブルにできていないのではないか」と言われて、確かにそのとおりなのかもしれないと悩んで。私も前野先生がおっしゃっていたイスティハーラの礼拝みたいなので、一度スカーフをしなくて就職探してみて、それで駄目だったら…、(という気持ちで)。あとは自分の気持ちが落ち着かなかつたりとか、そういうものがあつたらスカーフはした状態で、また進路を

あらためて考えることにして、もし決まれば、そこで働いてみることにしました。

その理由はここにもあるんですけども、自分の行動とかも大事で、スカーフとかに固執することではないかと感じたこともあります。あと結婚の話題が出たので一応結婚に関連しても自分が考えることも書いたのですけれども、外国人のムスリムの方、日本人のムスリムの方、あるいはノンムスリムに改宗してもらってというのがあるとは思いますが。でも日本人にしろ、外国人にしろ、ムスリムであれば価値観は同じでいいと思うと同時にやはりいろいろなムスリムの方と関わってきて、若干個人によっても考え方とかは異なるので、そのあたりは考えたいとも最近思うようになりました。またいろいろ考えていたら、自分の中で整理しきれなくなったので今は結婚については考えないようにしてます。私の周りは相手に改宗してもらっているような方も多いので、そこまでムスリムの男性の中から結婚相手はなどとまだ焦らなくていいかとも感じております。

ありがとうございました。駆け足になって申し訳ございませんでした。

<吉村> 大辻さん、ありがとうございました。ビビットな話題今、揺れ動いている非常に生の意見を聞かせていただいて、ありがとうございました。ご着席ください。では引き続き、2番目の発表者の方をお願いいたします。羅者アルサラーンモハメッドさんに最初にちょっと自己紹介をしていただいて、ご発表をお願いいたします。

<羅者> 皆さん、こんにちは。今、紹介をしていただいた羅者アルサラーンモハメッドと申します。短い時間ですが、よろしくお祈りします。初めに自己紹介をさせていただきます。私の父はパキスタン人で、母が日本人のハーフで、これまでずっと日本で育ってきました。平成5年生まれで、今年で21歳になります。5人兄弟の3番目です。小学校から小中高は全部公立の男女共学の学校に通ってきました。それで高校卒業後は、野田市の消防本部で採用していただき、今はオレンジ色の活動服を着て、人命救助などを行っている救助隊に所属しております。自分がムスリム、またハーフとして日本でどう過ごしてきたのかを少しですがお話しさせていただきます。

まず学生生活です。今、学生のムスリムの方々も同じ問題を抱えてるのではないかなと思うんですけども、一つ目が給食の問題、二つ目が学校でのお祈りの問題です。一つ目の給食の方は、両親から学校に話をさせていただいて、ブタを使う給食などはメニューを変えてもらったり、それができないときには自分でうちからお弁当を持って行って対応していました。ラマダンのことも学校には伝えてあって、その期間の給食の時間は図書室などで過ごすようにしていました。上にいる姉と兄も同じ学校に通っていたので、先生がたは皆そのことを知っていたので、特に変に気を使われることもなくて、そういう点ではよかったと思っております。

二つ目のお祈りの方は、学校に相談すればできる環境は簡単に整えられたと思うんですけども、そのときの自分は自分自身の信仰心の弱さと人目を気にして恥ずかしいという

気持ちがあり、そういうことは実行できませんでした。友達関係はハーフということもあり、ここでは目立つので多くの友達がいまいました。中にはムスリムではないですが、同じハーフという友達もいました。幼いうちは自分たちと違う宗教であることや外国人であること、また肌の色が違うことで周りの子からちょっとばかにされたりからかわれたりしてケンカをすることも多くありました。自分自身も実際に自分だけ周りの子と違うというところもあって、心細さや自分に自信を持てていなかったところがあったと思います。

しかし成長するにつれて、自分がハーフでありムスリムであることは日本の周りの子とは違うんですが、自分の大きなステータスだと思えるようになりました。この成長は両親と過ごした時間で得られたと思っています。自分の父の手伝いや一緒にどこか出掛けるときには、父がいつも自分の体験談などを交えて多くの話を自分に聞かせてくれました。また父の誰の前でも堂々としている姿を見て、ハーフなのも肌の色が皆と違うのも関係なくて、周りの子と違うのは自分の武器であり自分のとても誇るべきことなんだと気付きました。母と過ごす時間は厳しい中にも時には、友達のように気軽にいろいろなことを話せる仲であり、自分の大きな支えになっていました。

自分に自信を持てるまでは宗教のことなどは意識的に会話からは学校などで離れていたんですが、自信を持てるようになってからは、「こういう理由があって豚肉が食べられないんだ」とか「こういう理由があって断食をしてるんだよ」と友達に聞かれたら自信を持って答えられるようになりました。そうしていく中で、実際に自分が想像していたよりもすごい簡単に、周りの子たちは自分の宗教のことや自分のことを受け入れてくれました。今だから思えるんですけれども、周りの子たちよりも、自分自身が外国人であることや肌の色などを一番気にしていたのではないかと思っています。高校生になってからはコンビニや宅急便などのアルバイトなどを通じて、さまざまな経験をしました。またアルバイトは今でもやってよかったと思います。その理由は、そこで得た経験は今でもとても役に立っていると思うからです。

次に就職ですが、現職の消防士になりたいと思ったのは中学生の頃からでした。その理由はまた父の影響なんですけれども、父の教えでまたイスラム教の教えでもあると思うんですが、「困ってる人がいたら手を貸してあげなさい」と、そう言われて育ってきました。もちろんどんな仕事も直接的に、また間接的には人の役に立っていると思うんですけれども、その中でも消防士という職業は指令を受ければ火事に出動したり、逃げ遅れた人がいれば救助したり、またケガ人や病人がいれば救急隊が運んだりします。こんなに人の助けになっている仕事は他にはないと思って目指すようになりました。

就職の準備は、高校 2 年生のときぐらいから徐々に初めていきました。土日限定で専門学校などが公務員対策セミナーなどを開いていたので、そういうものに参加したり自分で問題集を買って解くようにしました。面接対策は放課後に高校の先生などに残ってもらって練習をしたり、家族に手伝ってもらいました。アッラーのおかげ、また周りの方々の協力のおかげで現職のこの職業に就けたんだととても感謝しております。今、所属している

救助隊の仕事内容をちょっとだけお話しします。交通事故で外に出られない人や火事の中に取り残されてしまった人、また機械などに挟まれてしまった人を指令があったら出動する仕事です。大きな機械などを使ってドアを外したり、車の天井などを取って助けたりします。

火事の現場では呼吸器というボンベなどを背負って、ガスマスクみたいなものを付けて、その中に入って助けに行ったりもします。今は救急車に乗る救急隊員になるための資格を取るために、千葉県の消防学校という所で 2 カ月間千葉県内の各消防本部の所属の方々と一緒に、平日は寮に泊まり込みで勉強や実技をしています。職場の環境は現場に出れば自分たちの身も危険にさらすわけですから厳しい指揮系統を得るために、日頃から上下関係がとても厳しい職場です。職場のほうでは、食事などのきっかけで自分がムスリムであることを話したりしています。

ときどき質問してくる方がいるので、それをちゃんと答えて自分がムスリムであるという事は理解していただいています。職場でのお祈りのことなのですが、これは仕事上、いつ災害が起きて指令が入るのか分からないという都合上、まだ実現はできていません。これからの自分の目標としては、今の消防学校を卒業して救急隊の資格を取って、多くの市民の方々の救護に役立ちたいと思っております。仕事以外の面ではイスラム教の知識をもっとより高めること、また同じヤングムスリムとの横のつながりを増やして深めていきたいと思っております。

多くの日本人の方々は、日本で育ったヤングムスリムの方を通してイスラム教のことを知ることが多いと思います。現に自分もこれまで生活する中で、多くのことを質問受けました。「なんでブタは食べられないの」とか「死んだらどうなるの」というものまでさまざまな質問を受けました。中には自分の知識がなく答えられないこともあったんですが、そういうことをなくし興味を持っている人にしっかりと答えられるようになりたいと思っております。

ヤングムスリム同士の横のつながりを増やしたいと思ったのは、まだあまりイスラム教のことが浸透してない国で生活していく上ではムスリムとしての多くの困難があると思います。また両親に相談できないこともあると思いますので、それを 1 人で抱え込むのではなくて、SNS などを通じて結構ラフな感じでコミュニティーができれば、全国の同世代のムスリムたちとつながれることによって、問題が解決していくのではないかと思っております。ちょっと駆け足になっちゃったんですが、以上で終わりにします。ありがとうございました。

<吉村> 羅者さん、どうもありがとうございました。小学校から現在に至るまで非常に簡潔にまとめていただきまして、ありがとうございます。付け加えますけど、消防のレスキューというのはものすごくなるのが大変な職業です。非常に頑張っているというので、尊敬いたします。じゃあ、最後 3 番目いきますね。林純子さんのほうからよろしくお願

いたします。

<林> ビスマッラー・アッラヒーム・アッラフマーン。アッサラーム・アレイクム。私は、すいません、ちょっとヤングムスリムと言われて申し訳ない感じなんですけど今、35歳で。大学生のとき2000年、2001年にアメリカに留学しまして、そのときにムスリムになって帰ってきました。私はすぐヒジャブも始めて、礼拝も時間どおりにやりたいというのが結構最初からあったので、日本の大学に戻ってきたときからサラートに関しては大学側と話をし場所を取ってもらったりとかしていました。ヒジャブは、別に大学ですから文句言われなかつたと思って勝手にしてました。

自己紹介するの忘れちゃったんですけど、いろいろありまして現在、司法試験に合格しまして司法修習をしてるところで、インシャッラー、今年のもう一回試験って呼ばれるものに合格しましたら、来年から弁護士となる予定です。すいません、ちょっと話が前後しまして。戻りますと、大学在学中はそういうふうにはやっていたんですが、就職活動を2002年、2003年ぐらいにしまして。そのときも私のこだわりとしてはヒジャブができることとあとサラートもやらせてもらうことってということで、もう十数年前なので今とはちょっと状況が違うのかと思ってるんですが。

ヒジャブをしたままでも仕事ができるっていうのは私としては個人的にすごく外に示したいと思っていて、ヒジャブしたままでも就職活動を頑張ったんですけども、その当時、就職氷河期と言われた時代でそれこそ数十社とかエントリーしたんですけど、厳しいと言われていても私の場合は半数以上書類審査で落ちたので。正直言って、そんな経歴で落とされるほどでもないし、そんなにメチャメチャな書類を書いたわけでもないと思うので、やっぱり大多数は写真で落とされたのかなっていう感触は抱いてました、当時。ですが、そんなことは言ってもしょうがないので、就職活動を続けて面接をやらせていただいた企業も幾つかありました。

そこでも言われたことが、その面接が終わって一対一とかで「ここからはオフレコで」とか言って、「あなた、すごくいいと思うんだけど、やっぱりその格好がちょっと宗教を布教してると思われると思うんだよね」みたいな感じで言われたりとか、そういうこともあったりして結局私も結構やったんですが、就職決まらず春を迎えて、大学4年生の春ですね。それでちょうど当時私、実家で会社をしまして、そっちのほうで人事異動があったりとか辞めちゃった人がいたりとかして、「そっちで人が足りないから来てほしい」という話もあり、親の会社なので、「それだったらヒジャブと礼拝はさせてもらうよ」というのを条件で入りました。

それでしばらく働いてたんですが、正直言ってあんまりやりがいがない仕事であったこともあって、あとはちょうど24、25歳とかで結婚したいとずっと思っていて、周りのムスリムの独身の子たちは皆、どんどん結婚していくのになぜか私はうまくいかないみたい。それでなんで私は結婚できないんだろうと思っていてまして、それが、アッラーが私に何か

他のことをさせようとしてくれてるんじゃないかっていうふうに思って。その頃ちょうどいろいろムスリムの方が法律的な解決が簡単にできそうなのに、なかなか弁護士にまで届かず困っていらっしやったりとか、難民の方がムスリムからの支援が受けられずに他の方の支援を受けていたりとかするのを目にして。これは日本にもムスリムの弁護士が絶対必要だ、これから必要なると思いました。

誰もやる気配がなかったので、私も結婚もできないしとかいろいろあって。じゃあ、私が司法試験を目指しますと思って、勉強を始めました。2009年に早稲田のロースクールに入学して、11年に修了したんですが、そのときも早稲田のロースクールのほうとお話させていただいて、サラートはさせていただく、それからヒジャブもさせていただくことで、すごく協力的にやってくださって。礼拝もわざわざ職員の方がいい場所を見つけて、安全でかつ人があんまり来なくてっていう場所を探していただいたりしました。

それで司法試験のときも、ヒジャブ付けて受験するっていうのが初めてだったらしくて、司法試験委員会から電話がかかってきたりとかありまして、「その格好でやるんですか」みたいな、あったんですけど一応「女性の方に盗聴器とか付けていないかと確認させていただいて結構です」という話でそういうことでやりました。それから礼拝についても、司法試験委員会のほうが当日礼拝の場所を確保してくださいまして、それで礼拝しながら受けることができました。去年合格しまして、去年末から司法修習をしてるんですが、司法修習って司法研修所と言われる学校みたいな所で研修するのと、あとは検察庁、裁判所とか弁護士事務所とかに回って実務を体験するみたいな感じなんですが、司法修習所のほうでも、「礼拝どうするの」という話で礼拝場所を勝手に……。司法修習所って広いので、「好きな所でやってください」ということになりまして。クラスごとに担任の検察官とか裁判官の教官の方がいらっしやるんですけども、その方たちが実務長の本当に霞が関の裁判所だったり、検察庁だったりっていう所にお話をしてくださいまして。検察でも裁判所でも礼拝の場所を、場所はあるまいないので今、使っていない会議室をとかいう感じにはなってるんですけど、そこをその時間のために空けてくださってという配慮をいただいています。

ヒジャブについても特に問題はなく今、こういうアバーヤして、ヒジャブしてるって感じなんですけど、この格好で毎日行っています。特に問題になったこともないですし、取り調べとかも検察とかではするんですけど、そこで被疑者の方から文句言われたりとかもないですし。特に、多分大丈夫です。弁護士としての就職活動もしているんですが、そこで弁護士も客商売なのでどうかっていう気はしていたんですけども、意外と買ってくださる方が多くて。面接とかもさせていただいて、私そんなに熱心にやってないんで、あんまり数は多くないんですけど、本当にもう「ぜひうちに来てほしい」みたいなことを言ってくださった事務所も幾つかあります。

私が自分の体験を通して思うことは、ちゃんと実力とか中身が伴っていれば、格好とかそういうことは気にされないでちゃんと評価されるんだと思っています。もちろん先ほど

言いましたように、書類審査で落とされたりとかもたくさんあったので、ないことはないと思うんですけど。それはそれでそんな企業はっていうのを考えててもしょうがないですし、認められる所で認められていくというしかないかと思っています。

それから私、もう一つ思ってるのが、ムスリムであるからといって私はムスリムだから差別されているとか、ムスリムだからあれなんだ、みたいなことをちらほら耳にすることが多いので、ムスリムの中から。そういうふうに使っていたら状況は改善しないんじゃないかと思っていて、日本は特に受け入れ体制っていうか、ちゃんと分かってもらえば分かってもらえるっていうところがあると思うので、被害妄想に陥らないっていうことはムスリムの側としては大切かと思っています。

あとはヒジャブとかサラートとか私、散々言いましたけど、これは権利だからみたいな言い方をしたらうまくいかないのかというふうには思ってます。お願いベースというか、「認めてほしいんですけど」という感じで、向こうも「いいよ」と言ってくれたら、それについてはノンムスリムの国ですから感謝を示していくっていうことが大事かと思います。すいません、早口になりました。以上です。

<吉村> 林さん、ありがとうございます。これでお三方からご報告をいただきまして、共通するような就職に関する悩みとか。特に女性の方の場合は、ヒジャブの問題とか皆さんの関心も非常に高い問題がいろいろ提起されたと思いますので、まずはフロアの方々から、お三方全員にでもいいですし、特定の報告者の方に質問もすることも可能です。じゃあ、挙手をしていただいてご質問受け付けますが、まず最初に質問される前にお名前等をお願いいただければと思います。では質問のある方、いらっしゃいますでしょうか。

<ハルーン> クレイシ・ハルーンと申します。私の質問は、特に羅者さんに質問ですけど私、子ども4人いて、男ばかり4人ですけれども、上の子が中2で、次男は小学6年生。特に中学校に入ると、学校の様子を見てるとマナーが悪いて言われてしまう、そういう印象を受けてるんですけど。このまま子どもが普通の高校に入ったら、もう彼のイスラムのマナーは、普通の彼のマナーはどうなるのかって非常に心配してるんですね。だから子どもをどっか、高校はできたら海外のイスラム学校行かせたいとか、日本でイスラムの学校あれば非常にいいんですけども、そういうことを心配しながらですね。きょう羅者さんの話を聞いて、マーシャッラー、普通の日本の学校を出て社会のためにも、それからいいムスリムとして本当に刺激を受けているわけですけども。普通の学校を出て、どう思いますか。私、一つの例ですけど、一般的な意見としては。

<羅者> 自分は普通の高校出て、日本人でも高校生とかになるとちょっと不良みたいになっちゃったりもするんで。すごい頭いい学校行ってたわけじゃないんで、そういう友達も多くいて。一応男の子なので、そういうことに憧れることもすごいあったんですけど、

やっぱり自分のお父さんですね。さっきも話したんですけれども、お父さんの姿を見て、お父さん異国の地に来て、まだ昔だったんで外国人が結構差別とか受けてたっていう話も聞いてたんですけど。その中で、自分のムスリムとか自分のプライドを貫いて生きてきたので、そういうことを見てたら、自分も不良みたいになることはかっこいいと思ってた時期もあるんですけど、自分の宗教を守って生きてるほうがかっこいいって、そっちのほうが自分のほうでは勝ったんで、そこはぶれずに過ごせてきました。どういう学校行っても、結局ぶれちゃう人はぶれちゃうと思うんで自分自身の問題だと思うので、そこは。なので、自分が気付けるか気付けないかなんで、そうですね。周りの人とかを見て、自分の場合はお父さんだったんですけれども、そこで気付けたので自分はよかったとは思ってます。ちょっと答えになってないかもしれないんですけど。

<吉村> ありがとうございます。

<クレシ> 私、クレシ・アブドルワハブと申します。名古屋モスクの責任者です。聞きたいんだけど、僕も子どもが4人男の子がいるんだけど、親がうるさいとか、よく言うこととかスケジュールとか親がなんでここまで言うのか、もっと勘弁してくれと思ったことは何回かありました？

<羅者> それは自分もありました。それはムスリムとかムスリムじゃないとか、外国人日本人とかは関係なくて、多分子どもは一度はそういうことになると思うので、それは誰でもあるのかとは思いますが。その先で、自分がちゃんと自分のことをちゃんとしっかりやっていけるかなのかとは思っております。

<吉村> 息子さんから質問があるそうですので。お願いします。

<アミン・クレシ> 早稲田大学国際教養学部のクレシ・愛民（アミン）と申します。僕も羅者さんに質問というか、とても個人的なことになってしまって申し訳ないんですけど、ハーフだったりムスリムであるっていうステータス自体がもともとはコンプレックスだったと。それが父の姿だったりとかを見て、コンプレックスがやがて自分の、先ほどおっしゃったようにプラスの、他とは違うアピールポイントになったっておっしゃってたんですけど、とてもお話聞いてて共感する部分が、僕もパキスタン人の父と日本人の母なんで、とても共感する部分が多くて。父の堂々している姿以外にも、周りの環境だったりとか、自分が貫き通そうと思ったときの周りの環境の反応だったりとか、それについてどう思ったかについて、もう少し詳しく教えていただければと思ってます。

<羅者> 自分が・・・どういうことですか、すみません。

<アミン・クレシ> コンプレックスからそのように変わったきっかけとかを、父の姿を見たっておっしゃってたんですけど、他にももし要素があったりとか、プラスの面が変わってそれを全面的に打ち出してたときの周りの反応だったりとかについてお願いします。

<羅者> 父と過ごせた中って言うてたんですけども、後ろ姿を見てだとかそういうのもあったんですが、もちろんモスクとかにも行って、話とかも聞いてたのでそういうこともあったんですが。それを打ち出してから周りの反応っていうのは、自分も最初はムスリムだ、みたいなそういうことはいきなりはできなかつたんですが。さっきも言ったように例えば給食とか学校生活なので、自分だけ違うメニューだったりしたら友達からやっぱり「なんでブタ食べないの」とか聞かれてたんですが、それも以前は自分はそういうのを濁してたっていうか、ちゃんと返事をしないで逃げてたりしたんです。

それ以降は、さっきも言ったように「こういう理由があって食べられないな」とか「こういう理由があって、断食とかしないんだよ」って言うてたら、自分はそういうことを言ったら、俗にいう引かれるんじゃないかみたいな、どういう目で見られるんだろっていう人の目ばかり気になってたんですが、そういうことは気になんなくなつて、実際説明したら周りの子たちは全然何とも思つてなくて、逆に「あ、そういうことなんだ。よく分かった」みたいな理解をしてくれて。それがあつたまでは、人目を気にしてたっていうのはやっぱり目立つんで人から見られてると思つてたんですけど、見られても逆に目立ってるじゃんみたいな感じで思えるようになったので。

今は消防学校行つてるんですけど、県内 100 人ぐらい来てるんですけど、県内の消防職員がそこでも名前呼ばれたときにちょっとざわついたりもするんですけど。名前覚えてもらえるとか、結構年下のほうなのでいろんな人にかわいがつてもらえて目立ってるっていうのはいいことだと思つて、自分の武器だとは今は思つてます。以上です。

<吉村> ありがとうございます。質問があるとは思いますが、アスルの礼拝の時間になってしまいましたので最後に桜井先生に。ずっと羅者さんだけに質問になつちやつたので、質問ではなくコメントで。今回新しい取り組みですので一言だけいただいて休憩時間に入りたいと思います。他の質問の方は第 2 セッションの後の総合討論のときにまたお願いいたします。じゃあ桜井先生、一言。

<桜井> 突然振られてちょっと驚いているんですけども、早稲田大学の国際教養学部で教員をしている桜井と申します。本日はお越しくささいましてありがとうございます。私のゼミとか授業にもやっぱり皆さまがたのような学生さんが毎回いらして、ここ次世代を担うような人が出ていて。きょうお話しくささいした 3 名の方のお話を伺つていて、本当に心から素晴らしいと思つてました。別に自分の宗教とかつていうことがなくなつて、今の

時代、要するに自分探し、自分自身が何か、そして自分のコミュニティーの中でのポジショニングっていうか自己を確立していくっていうのは、多分あらゆる若い人たちにとっての課題だと思うんですね。そういうものを非常に、信仰と自分の信念と、そして周りの人の支えの中で試行錯誤を繰り返しながらも立派に成し遂げられている。

一番うれしいと思うのは、立派なロールモデルがあるっていうことがこれから後から続く、何もムスリムだけじゃないと思うんですね。普通の若い学生にとっても、もうやっぱり宗教も何も関わりなしに立派なロールモデルなんですね。いいロールモデルがあるっていうことは、私たちの社会にとって財産だと本当に心から思いました。それと今、羅者さんが説明したら皆意外に、「ああ、そう」と分かったっていうね。日本の普通の子どもたちもそれなりの受け入れる力があるんだっていうことを、そのことを通じて知ることができてうれしく思いましたし。今、ものすごい相互不信と対立っていうのが一部で起きてますよね、例えば欧州で起きている。でも日本では絶対にああいう帰結にならないようにするために、何をしなければいけないかっていうと、皆さまがたのように一つ一つ教室の中で、あるいは自分のコミュニティーの中で少しずつ皆が努力してお互いを説明し分かり合うその積み重ね。本当に地味なんだけどその積み重ねで初めていい形の社会ができるんじゃないかと思ひまして。

本当に今日はいろいろお悩みになったかと思ひますけど、登壇してくださってありがとうございました。まだまだお話を伺いたいという気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

<吉村> 桜井先生、どうもありがとうございました。ちょっと時間オーバーいたしました。これで前半の第1セッションを終わりたいと思ひます。では、発表していただいたお三方にもう一度拍手をお願いいたします。それでは、これから休憩に入ります。プログラムどおり後半は15時10分から開始したいと思いますので、よろしくお願ひいたします。始まりにお伝えしましたが、礼拝のためのスペースをご用意しております。男性のムスリムの方は810で、ムスリマの方は811にスペースをご用意してございますので、よろしくお願ひいたします。それでは、これで前半を終わります。

(了)

パネルディスカッション

<吉村> ではパネルディスカッサントの方、 Masjidの代表の方、前にお願ひいたしました。岡井さんの指示に従ってお座りください。それでは後半のパネルディスカッションに入りたいと思います。パネルディスカッションと総合討論につきましては、店田先生が司会をされます。それでは店田先生、よろしくお願ひいたします。

<店田> それでは、パネルディスカッションのほうに入りたいと思います。今、6人のパネリストの方に前に出ていただきました。これからお話をさせていただきますが、進め方としましては先の基調講演、それからヤングムスリムのお三人のご報告を踏まえて、まずそれぞれパネリストの方から順に5分程度お話。先ほど特に羅者さんに父親の立場と言うんでしょうか、ハルーンさんあるいはクレシさんからいろいろ質問がでてきましたけども。そういうことも含めてもちろん構いませんが、あるいはMasjidとして若いムスリムの人たちにどのようなサポート、あるいはヤングムスリムに対してどのような課題を抱えているのか、とかですね。そういったことを含めて、それぞれ5分程度まず順にお話しいただいた上で、その後お互いに討論するような形で、フロアも含めて総合討論もござりますが、まずパネリストの方から5分ずつお話をいただいて、その上でまた議論していただきたいと思ひます。それではまず大塚Masjidのハルーンさんからよろしいでしょうか。お願ひいたします。

<ハルーン> ビスミッラー・アッラヒーム・アッラフマーン。きょうアフマド前野先生のお話、ヤングムスリムの将来についてコーランとハディースからの説明、それから3人の話を聞いて非常に感動しております。いいムスリムというのは、皆さんが認知しているのは、1日5回礼拝して、豚肉食べない、お酒飲まない、そこで終わってしまうんですけども。それももちろんとても重要ですけども、私が考えてる、私のイメージとしては、それ以上にいいムスリムというのはとてもマナーのいい人、社会のために役立つ人。それとても重要じゃないかと思ひます。イスラムの私たちの、昔の人々の歴史を読むと、彼らが人間としても、もちろんムスリムとしても、とても素晴らしい人々でした。

そういうことを考えると、私いつも、日本の最近の学校のマナーが悪いって失礼な言い方するんですけども。もちろん全然違います、昔の日本は違いがありますけれども。それは私、先ほども申しましたように父親として大きな心配でもあります。そのために大塚Masjidの例を申しますと、Masjidの近くに中学校があつて、Masjidにコーランのために通つてる子どもたちも結構40人ぐらひはいますし、去年から道徳の授業も始めて、かなりそれも成功してます。そういったことでMasjidに通つてる子どもたちはお互いにムスリム同士お友達になったり、特にいろんな支援があるんですね。活動があります。

例えば、Masjidの近くのサンシャインの横の公園でホームレス支援をやつてるんです

ね。そのとき特に私たち、子どもたちを連れて子どもたちにやらせるんですね。それが非常に子どもたちはムスリムとして、他の困ってる人を助けてあげないといけない、いいトレーニングにはなってると思うんですね。そういった意味では Masjid の役割で、非常に重要じゃないかと思います。例として Masjid を使うお話ししたんですけど、他の Masjid も同じだと思います。以上です。

<店田> ありがとうございます。それでは引き続きやはり大塚 Masjid のご所属なんですけれども、日本人ムスリムとしてという立場でもあるわけですが、永井さんのほうからお話をいただきたいと思います。

<永井> 皆さん、こんにちは。アッサラーム・アライクム・ワラフマトゥッラーヒ・ワバラカートッフ。今日こういう機会がありますことにアッラーに感謝いたします。それから次に申し上げることはアッラーのご加護があつてあることということでございますので、まずそれを申し上げます。大塚 Masjid の活動については今、ハルーンさんから話があつたし、それから受付にありますパンフレット、大塚 Masjid と大きく書いたあれの中に詳しく書いてありますから、ご参照いただければと思います。

それで若い人たちの今日はお話なんですけども、若い人たちの中には昔、若い人もいるわけなんですけども。ということも含めてお話ししますと、1980 年代、東京 Masjid こういものがなかった。今の東京ジャーミイあれもない、それから東京には一つも Masjid がない、そういう時代があつたわけです。ですから Masjid 代表者会議なんてことで開かれることは夢の夢のような時代で、当時は日本中で多分神戸にしか Masjid がなかったんじゃないかと思います。そのときのことを申し上げますと、ハラールショップはございません。それから限られた輸入商がハラールの肉を扱っていた、そういうことをロコミで聞いて港のほうまで出かけて行って、そういう所の冷蔵庫みたいな所に行くというような時代がありました。

そういうときに、私は 3 人の小学生を連れてインドネシアから日本に移り住んでまいりました。そのときに、まずは一般の生活ということで給食ってことが一番問題なわけなんですけれども、これについては私も一緒に学校に生徒を連れて行ったわけなんですけども、受付の先生がもうムスリムだって聞いただけでびっくらこいちゃって声も出ないような感じなんですね。ということで、こちらも時代背景も考えて給食には原材料多少書いてあるから、それによって選んで食べると、駄目なものは食べないというぐらいのことしか思い付かなかった。「弁当を持っていいですか」なんていうことを言い出すような雰囲気でもなかったし、私もそういうことを言い出す知恵もなかったということで。それは 1985 年のことですけども、それが当時の私が子どもにしてあげた給食についてのことでございます。

それから今度は 1989 年ぐらいですね。この頃から少し Masjid ができはじめ、礼拝する場所ができる。これは借り物のものも含めて、日本人の女性がお母さんとしてムスリムの

子どもを育てるといふ、本当にちゃんと育てるといふ新しい時代が始まったということだと思います。その前にもムスリムの人たち、お母さん方が、今で言えば私も同じ年齢でおりましたけども、その人たちがムスリムの子どもさんをちゃんと育てたのかなという時代がありました。それは環境の問題もございます。そこで若いムスリムたちが今、置かれた環境の中で、一つここにおられる方も感じてることだと思いますけども、中田考先生っていう方がございます。これは名前をお聞きしてると思いますけども、この方がおったということ、この人がいろいろ面倒を見てくれたということが今いる若いムスリムで、敬虔なムスリムとして育つていうか、そういう形で入信されるていうか、そういうことの非常に大きな影響を与えられた方だと思います。

この方はイスラムの知識も与えてくれる、イスラムでない知識もお持ちである。それからいざとなったらお金もくれます。それからお見合いもセットしてくれて、ムスリム同士デートもしちゃいけないとか、男と女は席を同じようにすべからずなんていうときに、結婚相手を見つけることもできない、どうしようっていうような人に対して、具体的に「あのひとあの人、お見合いしたらどうですか」ってなことをアレンジして、それで結婚された方もだいぶいると思うんですけども、そういう方もおられました。ていうことは非常に意味があったし、またあと1分ですって言うんですけど、先ほど店田先生がだいぶ長くやられたんで私も安心して長くやる気はないですけども、インシャッラー、早くまとめたいたいと思います。

それから、そういうことで中田先生なんか間に入ってくださって結婚した方がおられる、日本人同士でですね。その日本人女性がよいムスリムを生み育てるといふ時代がやってきたということで、そういうことがあります。それから先ほど外国人のムスリムの方が心配してられる、日本の普通の学校行ってちゃんとしたムスリム育つのかっていうことなんですけども、前野先生を見てください。普通に日本の学校で育った人です。この人がちゃんと育つんだから、よく育つ人はちゃんと育つんです。それから皆さん、皆さんの国で立派なイスラムの環境の学校で育った人たち、日本に来てます。皆、立派ですか？だからちゃんとした環境で育ったからといって、イスラムとして立派かどうかってこともちょっと考えてみてください。私はくさしてるんじゃないですよ。現実を見てください。それから子どものアレルギーのことがあるていうことで、今の時代はアレルギーのことがあるから、給食については、学校は大変柔軟に対応してくれます。昔は同じものを食べて、同じ量だけ食べるんだていうのは教育の一環だったんです。それは今じゃ、そんなことはない。ていうことで、弁当を持ってくとかそういうものに柔軟に対応してくれる、ムスリムの子どもを抱える親にとってありがたい時代になってきているということが言えると思います。

それからもう一つ、大砂嵐の存在。われわれイスラムの指導者といって壇に上がってる人間がなんも大声出して「断食だ、礼拝だ」と言ったって、皆さん右の耳から入って左に抜けてくんですよ。ところが大砂嵐は断食をしながら、「おお、勝ちました」ていうわけですよ。これは全国に放送されるわけですよ。これたるや、別に教義を教えるわけでも

なんでもないんだけど、イスラムには断食あるんだ、断食やっても頑張るんだっていうものを現実を知る時代になる、そういうことで大砂嵐の存在っていうのはわれわれ忘れてはならない。この存在はイスラムの名前を使って悪さをしてる人いますけども、こういうものの報道を打ち消すぐらいの力はあるんじゃないかと思います。この大砂嵐を受け入れた日本相撲協会の懐の深さに、われわれは思いをはせる必要があるんじゃないかということです。イスラム世界もそうですけども、その他も仏教世界も、渡来人が日本を発展させてくれます。外圧というものが日本を発展させてくれております。そういう中で、イスラムも、上手に外圧を使って、外国人の人たちがわれわれを利用するんじゃないかと、うまい具合にそうなっちゃうのが日本であるという実情をもうちょっと考えてみたらどうなのかということでございます。

それからもうちょっとで終わりますけども、数年前に帰化した若者がおります。これは家族のせいであつたんじゃないんです、本人がなりました。その人が体育会系で高校時代を過ごしたんですけども、3年生になったときに、「僕はもう体育やるのはやめました。受験に専念します」ってことだったですね。「どこ行くの」ついたら、「防衛大学校」っていうんですよ。もう他には私は行く気はありませんっていう態度なんです。それで私はそのときに何も言わなくてよかったと思ってるのは、そんな帰化した人で、ムスリムで防衛大学校受けて入れてくれるのか、国粋の固まりみたいなそこが受け入れてくれるのかと思ったんですね。ところが受験が終わって今度会ったときに、「合格しました」っていうんですよ。

そうすると、防衛大学校っていうのは全寮制です。食べ物全部支給されますよね。そしてたら彼の話はこうなんですよ。「実は、防衛大学校にはたくさんの留学生が来ております。ムスリムもたくさんいますから、食事はちゃんとムスリム用のものも用意されてます」っていうんです。ということで私は、その人が防衛大学校に行ったおかげで防衛大学校の寮制度っていうか、大学のある部分、一面を知ることができました。それからある1人の青年ですけども、この人は仕事をして、その後ちょっとお金がたまって海外に行きたいっていうんで行って、そこでムスリムたちの温かい人情に触れてムスリムになって帰ってきたんです。そうしたら彼は元の職場でやってた仕事、これは自分の専門だっていうのを売り込んで、またちゃんとした会社に勤められたっていう方がおります。

ですから、この二つの例を挙げると、自分でしっかりとした志を持っていれば、ムスリムであるとかないとかそんなことはあまり関係ないんじゃないかっていうことでございます。それからここでは割愛しますが、私にもそういう経験があるわけですけども、その話を聞きたければ、また別の機会を誰かが作るとか私が作るのかそうすれば語ります。ということでございます、以上です。

<店田> ありがとうございます。ちょっと長くなりました。

<永井> すいません。

<店田> いえ。それでは名古屋マスジドにおられるクレシさんのほうから親としての立場ももちろんあるでしょうし、あるいはマスジドの代表としてのお話もあるかと思います。そういう点でまずお話を伺いたいと思います。

<クレシ> ビスマッラー(録音不良)。ありがとうございます。この会議が始まったのは、モスクの紹介から始まっていて、テーマとして今日変わったことがありましたんですね。それと一緒に3人の紹介もあって、非常によかったです。だから本当にありがとうございます。皆さん、すごい苦しくて、苦しくなりながらも頑張ってきてやったことがそれぞれすごいよかったと思います。これからも頑張ってください。

あとは名古屋マスジドからヤングムスリムに関しては、僕は非常にそういうのが自分も、親としても、それからモスクの代表としても7、8年前から子どもたちの親を集めて何とか皆の話聞きたい。皆の子どもがどういうふうに暮らしてるのか、親としては何に困ってるのか、子どもにどういうふうに言われて何を答えてるのか、それを集めてくれないかってことにして、かなり名古屋でいろんなモスクに声掛けたんだけど、なかなかやはり動かない。返事が来ないことが多くて、諦めたわけじゃないけども、かなり時間がたって、僕の子どももいつの間にか上の子が23歳になって大きくなって、社会人になって社会出てるんだけど、きょうのテーマと同じように困ってること、じゃあどうしたらいい。それをやってくると、これからの準備が今までなかったの、今のところまだ遅くないので私たちは本当に名古屋モスクからはこれからインシャッラー、子どもたちの将来のための、どういうふうにやっていけばいいか、それを考えてちゃんとやっていきたいと思っています。

それからマスジドとして私たちは何すればいいのかってこと言われると、やっぱりそれを子どもたちに教えながら、いろんなことをやっていきながらやっていってるんだけども足りないところがあるから。子どものほうから親に言えないこと、友達には言うことはいろいろあると思うんだけど、それもやっぱり親としては聞きたい。それから自分の子どもじゃなくても、他の人からそれを聞けば、何とかそれをモスクとしても他の子どもたちに嫌な思いをできるだけ避けるようになると思うんですね。それから話あると思うんだけど、きょうのフォーラムではそのステップアップしたことは本当に非常に感動しましたので、本当にありがとうございます。サラーム・アレイクム。

<店田> ありがとうございます。浜中さんですが新居浜のマスジドの代表という形で、浜中さんご自身ももちろん親として、それからマスジドの代表として、あるいは、いろいろお聞きになってるいろんなムスリムの問題というのもお聞き及びかと思います。そういったものもしございましたら含めて、お話いただけますでしょうか。

<浜中> 地方のマスジドで代表をやっております。最初に出ていただいたヤングムスリムの方を見て、非常に感心をして。特に女性の方、すごい信仰心あって立派にムスリムを続けられています。それとあとお父さんがパキスタン人でハーフの方なんですけれども、お父さんの励ましがあって信仰をずっと持ち続けて立派に成長されたというのを見まして、素晴らしいと思っております。僕も子どもが4人ほどおりまして、もうだいぶ大きくなったんですけど、うちの子どもたちが小さな頃っていうのは周りに全くもちろんマスジドもないし、イスラム社会もない中で。それとうちの家庭の場合は、僕も妻も日本人でして2人とも入信ムスリムなんで。

でも何とかこの土地にイスラムの旗を上げようと思って一応頑張ってはきたんですけど、なかなか子どもの教育というようにはならなかったんですね。反抗期っていうのは非常に反抗して、「なんでこんなことせんといかんの」とかよく食って掛かったりすることもあった時代があります。それでうちの妻もあんまり強くも言わなかったんで、子どもに任せてたみたいな形になりましたけど。ある程度成人してきたら、「自分、イスラムの勉強したい」とか「結婚相手は絶対ムスリムじゃないといかんから」ということで次々と結婚してくれて、もう全員これで片付きましたけど。アルハムドゥリッラー、なんとか皆、日本人同士で結婚したり、あるいは1人は外国人と結婚するというような形で無事に収まりました。

新居浜マスジドができて、これで十数年になります。結構古いマスジドの一つになってますけど、ここで見たときに問題なのは国際結婚した人が多いんですけどもね。さっきの羅者さんのようにお父さんが外国人で、お母さんが日本人こういった場合と、その逆、お父さんが日本人で、お母さんが外国人っていう場合と二つあるんですけども。なかなか難しいんですね。例えば羅者さんの場合、お父さんしっかりと信仰あって、マスジドにもよく羅者さん自身も通ってたと思いますけれども。

うちのマスジド見た場合に、そういう立派なお父さんもいるけれども、ちょっと困った人もいるというような。また逆にこっちはインドネシア人が多いんですけど、逆のパターンでお父さんが日本人で、お母さんがインドネシア人なんですけど、なかなかやっぱり子育てに苦労してるし、お父さんがなかなかマスジドに来ないということで、いろんな形でマスジドとしたら悩んでおります。あんまりイスラムの勉強、イスラムの勉強って敷居を高くすると誰も来なくなるし、敷居をどこらあたりに持っていこうかと思ってるいろいろと悩んでいるのが今の現状です。大塚マスジドとか見てたら、すごくコーランの勉強会して子どもたちが集まったりいろいろやってますけど、うちの場合は何をやってもあんまり集まらないというような状況で。

それでも何とかいろいろと遊びから入ろういうんで、「一緒に食事会しましょう」とか「インターナショナルパーティーしましょう」とか何とかの形で集めて、その中で取りあえず知り合っというような形でやっております。ちょっと話が長くなりました。方向が違わるところ行ってますね。終わりました、また続けます。

<店田> ありがとうございます。それでは次にまた代表者ではなくて、今度は立命館アジア太平洋大学の先生をやってらっしゃるタヒルさんに、大学の先生としての立場から学生を指導するってということもあると思いますので。そういった学生の就活、指導という面からお話をいただければと思います。

<タヒル> 私はアジア太平洋大学のアソシエイト・プロフェッサーで、カーン・タヒルと申します。あとは別府ムスリム協会の代表も私なので。別府ムスリム協会は、九州の最初の宗教法人でした。福岡も今 Masjid がありますけど、福岡 Masjid は別府 Masjid の後に宗教法人になりました。それで九州の一番最初の Masjid は別府 Masjid で、私は最初に日本に来たときはまずは九州大学にいて、向こうの福岡 Masjid にも少し参加しました。

きょうのテーマに戻りますけど、ヤングムスリムというのは、例えば私たちはビジネスするといろいろなマーケット、セグメントが見えないと分からないですよ。それでヤングムスリムは、もう一つだけじゃなくてこの中にいろいろなセグメントがありますよね。それはコンヴァートした方々、イスラム教に入ったヤングムスリムと、あとは日本に生まれたイスラム教の親に生まれた子ども。多分少し、大体同じですけど、ちょっと別々のニーズがあるのではないかと考えています。

例えば、私の大学にいた学生たちは、その大学はもうインターナショナルな大学なのでいろいろな国から学生たちが来ます。90 何か国からの学生、その中にももちろんイスラム教の学生たちも多いので、その学生たちは卒業した後はもう日本のいろいろな会社とかに働いています。それで私たちのちょっと書いたものですけど、例えばインドネシアからの一番最初の卒業した方は、日本に、例えばエンプロイメント、どこかの会社に働いてるのは 3 人でした。それはもう今、増えて 16 人になってます。あとはだんだん増えてます。

例えばマレーシアからは最初は誰もいなかったけど、今は大体 12 人ぐらい。それでいろいろなイスラム教の国からその人たちの人口がだんだん増えていますが、その学生たちが卒業したとき、それで就職するときは、もう面接とか、それをしたときはいろいろな学生たちがいます。恥ずかしくて、学生たちはそのときは宗教の話はそんなにしません。でもちゃんとした学生たちは、「私はお祈りもします。お祈りの場所はお願いできますか」とか、そのようにした学生たちもおります。

あとは外国に生まれて日本に来て、こっちから卒業して、それでも日本の他のムスリムの女の方と結婚した人は少ない。大体 90 パーセントはもう自分の国の人と結婚して、一緒にここに住みますけど、それは多分日本のコンヴァートされた方といろいろなニーズが違うのではないかと考えてます。それで別府には、私たちは、今はイスラム教になった人に少しでもできるだけ Matchmaking とかもします。それが他のモスクと違うのは、私たちのこのこととを考えています。今の時間も終わったので、どうも。以上です。ありがとうございます。

<店田> ありがとうございます。すいません、先生は別府マシジドの代表でもあるということで、代表者でもあるということですかね。ちょっと失念しました。最後に、基調講演をいただいた前野さんのほうからお話をいただきたいと思うんですが、ヤングムスリム 3 人の方のお話、あるいはパネリストの方のお話をお聞きになった上での基調講演者としてのって言いますか。あるいは社会人としての前野さんのほうから、ちょっとコメントいただければと思います。

<前野> まずは 3 名の報告をしてくださったヤングムスリムの皆さん、とても素晴らしいお話をありがとうございました。とても誇らしく頼もしく感じました。裏話をすれば、お三方のうち 2 人は岡井先生と私で推薦してお話ししていただいたので、えっへんとよかったと言いますか、誇らしく頼もしく思った次第です。お三方のお話つなげて、これからの貴重な何人かいらしてくださってますけど、ヤングムスリムの皆さんへの問題提起と言いますか。もちろんこの場にいらっしゃる皆さんにもお考えいただきたいと思いますけど、それが一つ。それから、マシジド代表者の皆さんと一緒に考えていただきたいという問題提起を一つさせていただきたいと思います。

最初のものは、例えばサフィーヤさんが、弁護士が他にムスリムでいないから私が弁護士になろうと頑張られて今、その道にあると。マーシャッター。羅者さんも消防士、他に私の知る限りはいないんですけど、見事なられて頑張っておられる。さように何か新しいことを始めるのには大きな努力が必要ですし、また同時に批判も伴うと思うんです、前例がないが故に。例えば私も合気道をずっと大学生の頃からたしなんでますけども、合気道なんかでも私の気持ちとしては日本人がムスリムになったからといって、いつもおんぶにだっこで他の世界のイスラムムスリムの同胞にお世話になるばかりじゃなくて。何か日本だから得られるということが発信できたら、何かムスリムの世界の同胞のためになるようなことをアピールできたらよりいいんじゃないかという気持ちから始めたわけですけど。

当然、今でこそ女性と稽古もしないで済みますし、礼をしないで済むって素晴らしい師範に出会えて、守るべきは守るっていうことはできてます。大学時代はやはりそんなこと言ってもらえませんから、すべきでないことに関わっていたようなこともあって、いつも新しいことってというのはリスクを伴うと思うんです。その中で今後、皆さんがこんな新しい分野でイスラムと絡めて、日本的なものをイスラム風アレンジとか、そのような形で何かしていけるものはないだろうかというものをいかにお考えでしょうかというのが一つ。

もう一つは、先ほど子どもの教育について私も 5 人の父親ですので、非常に大きな関心事の一つなんですけれども。桜井先生も言われてたとおり、ロールモデルは本当にその社会の財産だと思います。私たちムスリムにとっても、寸劇の中でもセリフで出ささせていただきましたけど、最良のロールモデルは預言者ムハンマド様なんですけれども、その方を延長線上に置きながら、より身近なロールモデルが必要なんです。その意味で、さまざま

な分野でロールモデルが必要です。その中で、マシジドの構成員、マシジドに通う人たちと子どもたちって小さいとはいってもコミュニティの関わりが、私から感じる限りではほとんどないんです、残念ながら。マシジドが礼拝場所ではないのが現実じゃないかと。

一体どれほどの子どもたちが、マシジドの通う大人、ムスリムの大人たちを見て、素晴らしいかっこいいムスリムのおじさんだ、すごいすてきムスリムのおばさんだと、私もあなりたいというような親近感を抱くでしょうか。幸い、アルハムドゥリッラー、本当に個人的なつながりがある角岡さんとかそういった方は私の子どもに接していただいて、「ムスタファ先生、ムスタファ先生」と仲良くしていただいて、身近に感じてもらうと思えますけども、別にすぐそばに住んでるわけではないので。課題はやはりコミュニティで近くに生活の場にありながら、いかにコミュニティを形成するムスリムが、もっとより人間としての交流を持って、信徒としての交流を持って、お互いにいい関係を与え合えるかじゃないかと思ってまして。子どもの教育のことを考えても非常に改善策を練っていくことが大事じゃないかと思っています。

<店田> ありがとうございます。一応パネリストの方のお話終わったので、私のほうから少し議論を展開させるような形でいろいろお聞きしたいと思うんですが。今、前野さんのほうの最後のお話で、マシジドと子ども、メンバーと子どもたちとの関係というのがありました。先ほど名古屋のクレシさんのほうからいろいろ努力はしてるんだけど、人が集まってこないというふうなお話がありました。あるいはただ礼拝に来るだけにマシジドを利用しているというふうなお話があったんですけども。名古屋の場合、どうして人が集まらないって言うんですか、その辺の理由と言いますか、あるいはマシジドの構成員に問題があるのか、何かどんなところが問題なんでしょう。

<クレシ> すいません。先ほどちゃんと説明しなかったんですけども、人が集まらないじゃなくて、人は結構集まるんですね。土曜日は非常に忙しい。お昼 12 時から子どもの勉強会、親の勉強会があって、3 時から日本人と子どもと一緒に勉強会があって、その後に子どもたち 6 時からお茶会があってですね、子ども結構来てます。お母さんたちは結構、集まっています。皆さんすごく頑張ってるんですけども、お父さんのほうが頑張らないんですね。お母さんは、日本人のお母さんは本当に素晴らしいんですが、そこを頑張って一生懸命子どものために役に立とうとか、皆こうやってやれば子ども喜ぶとか、非常に頑張ってやってるんですけども。私たち、僕もパキスタン人ですけども、父親がなかなか集まらないんですね。父親が集まらなると、お母さんだけはやっぱり半分だからね。全部じゃないから、それだけの問題です。

あとは前野さんも言ったように、モスクの横のつながりはないこと、それは非常に僕も感じてるんですけども、それはどうしたらいいかというと、前野さんにも僕は自分がそういう言ってるのであれば、東京どうなってるんだってことも聞きたいんですね。だからま

ずそれ 1 個は、モデルというか、ロールモデルがあれば何となくそれはつながるんだけど、そういうところも非常に考えてほしいですね。それをただ嘆いて、どうなってるんだってことするんじゃないくて、自分が何やってるのかってこともあると思うんですが。そういうところはどうでしょうか。

<店田> 前野さんに投げ掛けられたようなところがあるので、前野さんちょっとお話を。

<前野> いえ、誤解があったら訂正しますが、私は特に個人攻撃で名古屋とかっていう話じゃなくてですね、全然。じゃなくて皆さんで考えませんか、力を貸してくださいってという提案をただけです。

<店田> そうですね。私ももちろん名古屋に対してっていうことではなかったんで、名古屋でこういう状況があるんだけどということだったんで、ちょっと話をさせていただいたんですが。ただ前野さんが先ほどおっしゃってたような状況についてもそうなんですが、将来のために具体的なプランと言いますか、こんなことを例えば Masjid として取り組んだほうがいいのかとか、あるいは Masjid 間の横のつながりというのは以前から問題になってますけども、そういうことについて具体的にこういうことをしていくべきなんじゃないかとか。その辺りのもしお考えがあれば、何かお話しいただければと思います。ハルーンさん。

<ハルーン> 1980 年代に多くの外国人、特にたくさんの方が日本に来て結婚したわけですね。その頃、先ほどお話があったようにモスクがなかったんですね。東京にもなくて、モスクと言えば神戸のしかなかったんですね。そうすると、そのとき生まれてきた子どもたち、そのとき（録音不良）っていう言い方をされたんですね。少し差別があったかもしれないけど、Masjid もない、イスラム教育を受けていない、ほとんど私の経験で申しますと、99 パーセント以上の子どもたちイスラムのこと全く知らない子どもがいたと思います。

最近ハーフという言葉じゃなくて、ダブルという言い方もありますし、それから Masjid も増えてきまして差別っていうのはもちろん宗教的な差別ではないんですけど。イスラムだからっていうことじゃなくて、私の子どももときどき差別的なこと学校であるんですけど、それをよく調べると、その子が差別、いたずらした子どもは宗教と関係なく他の子どもにも同じくいたずらするそういう子どもいるんですね。ですから言いたいのは、子どもに、今日羅者さんの話も聞いて、自分がハーフまたはダブルということに誇りを持って、そういうふうに私たち育てれば、その子どもが非常にいいムスリム、またはいい社会人になるんじゃないかと思います。

Masjid も一般的に素晴らしい所で、教育の面ですね。それはもちろん大塚 Masjid

も含めて足りないところたくさん、他のもそうだと思うんですけど。たくさんありますが、最近3、4年前から日本でイスラムについて非常にいい風が吹いてるんですね。ハラールについてもそうですし、メディアもイスラムについて非常にポジティブになってきてるので、そういう意味では昔に比べて、非常に子どもたちもある意味では楽な関係にいますし、これから Masjid もいろんな教育の上で活動すれば、または Masjid と Masjid の間の交流が増えれば、お互いの経験を学んでこれからのことは非常にいい方向になるんじゃないかと私、思います。

<店田> ありがとうございます。クレシさん、お願いいたします。

<クレシ> すいません。私が指名されたんだけど、僕がしゃべるより、子どものために実際すごく頑張ってるサラ、僕の奥さんだけでも、彼女のほうから声を、そういう子どもたちとどうしたらいいか聞きたいんだけど、よろしいですか。

<店田> 今、クレシさんのほうからお話があったんですが、クレシさんの奥さんで、名古屋 Masjid で教育に関していろいろお仕事でご努力いただいているサラさんのほうからちょっと、それに関連してお話をいただきたいと思います。

<サラ・クレシ> すいません。サラです。名古屋から参りました。夫婦で厚かましくいろいろとしゃべらせていただきますけれども。まずヤングムスリムの方の体験のお話すごい感動しまして、本当に来てよかったと思って、ありがとうございます。貴重なお話聞かせていただいて、すごくよかったんですけども、名古屋はまだ全然そこまでいってないんです、実は。1980年代ってことが出てますけれど、10年は遅れて名古屋は外国人の流入がありました。ですから、国際結婚もベビーラッシュも全部10年の時差があります。ていうことは今、名古屋モスクに集まっている子どもたちの中心になってる年齢っていうのは、小学校高学年から中学生です。

この子たちが抱えてる問題、これもやっぱりヤングムスリムの問題としてぜひ考えていただかなければいけない問題だと思います。先ほどのヤングムスリムの方のお話しされたような就職とか結婚というのは、どちらかというところら側に選択肢がある、受け入れてもらえるかどうかは別ですけど、こちら側は選べる状況です。ただこちら側に選択肢がない、つまり逃げ場のない学校で誤解と偏見と闘っていかなきゃいけない子どもってのが、小中学生が本当にたくさん日本中にいると思います。名古屋が10年遅れです。もうちょっと地方都市に行くと、さらに10年ぐらい遅れて今、幼稚園だったり。この子たちもいずれ小中学生になります。ヤングムスリムの方たち、東京の方たちも年齢上ですけど、この方たちがまたあと10年後にはお子さんができて、第3世代がまた小中学生。この小中学生をどうやって守っていくか。これってものすごく大変なことだと思うんですね。

一例を挙げたいんですが、私の息子の話です。一つは今朝聞いたばかりの話なんですが、この間の英語のテストで風刺画が出て、それについてコメントを書かされるテストがあったそうです。風刺画っていうとピンとくると思いますが、インクつぼにムハンマドと書かれています。そこにペンを差し込むと、インクつぼが爆発するっていう漫画がテストに出るんですね。この子は公立じゃなくて、あえて国際っていう名前が付く中学・高校に進ませてます。差別が怖いので。その国際って名前が付く所では、トルコ系の子だとか、ミャンマーの子とか、ムスリムは結構いるんですけれども、そこでさえもこういうテストが行われる。それに対して、どうコメントすればいいのか。

きょう用意してたのは、実は読売新聞に取り上げられたこの子の行ってる学校の授業の風景なんですけど、ここで風刺画、ちょっと見えるかどうか分からないんですけど、この風刺画がスクリーンに映し出されたんだそうです。これは武器を持ったテロリストとペンを持ったフランス人、この風刺画をああやってスクリーンにボンと出されて、「Who has damaged Muhammad more?」っていうタイトルで討論が行わるんです。ムスリムの子がいるかもしれない学校で、誰が預言者様を傷つけたのかっていう話をするっていうのはどう思われますか。教室って逃げ場がないんです。1時間そこに座ってなきゃいけないんです。

そこで明らかにテロリストが悪い、悪者になってるっていう授業を延々と1時間座って受けなければいけない子どもがいる状況です。幸いこの子はこのクラスにはいなかったんですけど、やっぱりどっかでこういう授業を受ける可能性があるか。これはこの子だけじゃなく、いろんな子どもたちがいると思います。そこでちゃんと反論できる子はいいですよ。ペンは剣よりも強いんで、ペンのほうが暴力だろうって、ペンのほうが悪いって反論できる子はいいいんです。でもうちの子はできないです。

なぜかという、小学校のときに傷を負ってます。小学校6年のときに、イスラムを授業で取り上げられました。そのときに友達が何の気なしに息子に向かって、「おまえ、爆弾巻いてるの」って聞いたそうです。何の気ない冗談なのでクラスはドーっと笑って、先生も特にフォローしないで通り過ぎたそうです。でも息子はショックを受けました。今まで自信を持って信仰していたイスラムが、実はテロリストと同一視されてるっていうことにすごいショックを受けちゃったんですね。

その後彼はひた隠しに自分がムスリムであるってことを隠すようになって、中学校に上がってからはもう食事の場面で絶対ばれるっていうのが分かっていますから、食事を伴う行事、キャンプとかテーブルマナーのディナーとかって一切出席しません。私、スカーフかぶって学校に行くっていうとまたばれますから、「授業参観も来るな、文化祭もコンサートも一切来るな」っていうことで私は学校には行けません。あるとき調理実習があったときには、どうしても行きたくない。また例によって、そのときは調理実習の材料に豚肉の代わりに何か代替食を用意されるっていうことで、学校側も配慮してくださったんで何とか私も行かせたくて攻防戦がありました。

中学生にもなった男の子が泣いて騒いで、「絶対に行かない」、「どうしてそこまでムスリ

ムを隠すの」って言ったときにポロって出たのが小学校 6 年生のときの傷でした。びっくりしました。言わないんです、そのときに子どもは。どうしたらいいでしょう。親は子どもの傷に気が付くことができないんです。学校は閉鎖された空間です。子どもは逃げられない。親も分かることができない。じゃあ、どうしましょう。きょうお話になったヤングムスリムより一世代前のヤングムスリムも何とか守ってかなきゃいけないんです、大人が。どうされるか考えてください。

そのための私なりの一策としては、環境を整えることだと思います。偏見がすごくあります。その偏見を少しでも減らすために、イスラムのイメージをやっぱりよくしていくことだと思います。それはイスラムが侮辱されたからって言って、ムスリムに対して否定的な言動が例えあったとしても、それに対して大声で抗議するっていうことはやめてほしいんです。例えばよく公園でひげを生やした外国人が集会をして、なんかに対して抗議するとか、新聞社の前に行って拡声器を持って大騒ぎしてる。そういった場面が映像で流れると、日本人はやっぱりって思っちゃうんです。過激派とイスラムは絶対違うってことを普通に分かっているんでしょうけども、そういう場面を見ると日本にいるムスリムも怖いってなるんです。

抗議するのは正統な権利だと思います。でも大声を上げて抗議しなくても、冷静に丁寧に根気よく静かに抗議するってことはできると思うんですね。ご存じでしょうか。自称イスラム国っていうのがあって、それに対して「イスラムって名前を使うのがよくないよ、やってるのが違うでしょ」っていうことを、非常に冷静に百何十人の世界のイスラム学者が連名で公開書簡を書いてネットに上げてます。こういったのってとても理性的で、説得力があると思います。これでもいいじゃないかと。だから今、イスラム国って名前がすごい出てて、うちの子どもももう本当にへきえきしてるんですね。学校に行くと、イスラムって言うとなんか誤解されるっていう感じで。

このイスラム国っていう名前も変えてほしいです。そのために抗議をどうするか、これも冷静に丁寧に。例えばモスクの代表がせっかくいるんだから、ここで連名で声明を出すとか。モスクの代表たちが持ち帰って自分のエリアの人たちの署名を集めて、イスラム国っていうのをやめましょう、イスラム国っていう名前を使わないでくださいっていうような署名を集めてメディアに提出するなり何なりっていうことをすれば静かな抗議になる。これだって効果があると思うんですよ。大声で怒鳴って抗議すると、それは日本にいるヤングムスリム、特に若い世代の逃げ場のない子どもたちの足かせになります。

お願いですから、それをやめましょう。そしてこの子どもたちを守っていくことを考えましょう。この子どもたちが自信を持ってムスリムだって言えるような状況を作ってっていただきたい。それをちょっと皆さんに訴えたくて、ごめんなさい、お時間をいただきました。その本人が、傷を負った本人がなんかしゃべります。

<店田> どうぞ。お願いします。

<アキール・クレシ> やっぱり小学校以来トラウマで、自分がイスラム教徒ってばれたとき嫌われたり、批判されたり、怪しまれたりするのが怖くて、今も隠して誰にも言わないでいくのが今の状態です。

<店田> ありがとうございます。子どもたちに関する重要なご発言があったんですけど、これについてパネリストのほうからコメントがある方いらっしゃいますでしょうか。

<タヒル> 私も同じ問題がありました。自分の子どもは今、上のはもう中学3年生、その下は中学1年生、一番下のは小学2年生。小学2年生の子ども、同じ問題私に言ったんですよ。それで私は3日間ぐらい前、大分県庁の方々にも別の用事でも意見があって、それが終わった後、私は同じ話をしました。僕の子どもは学校行ったとき、始まる最初の日、先生は皆子どもたちに話しました。世界にいろいろな人がいます。いろいろな例えばアレルギーがあってとか、それがあって子どもたちはいろいろな食べ物を食べます。食べないものもあります。それでも先生は良く話しました。

その後は、私の子どもは学校に行っても、別のお弁当とかそういう食べても全然大丈夫でした。でもこれは新しい問題があって、本当にあの子はすごく…**He was feeling very bad**。それで私は（録音不良）もし先生たちの会議にこのことを教えたら、先生は多分いい方法で子どもたちに話します。このような問題があってとか、イスラム教徒とテロリズムはもちろん別々なので、そのような先生は話せば多分いいじゃないかと思っていました。あとは、もちろんイスラム国 **They should have a different name** それはもうイスラム国じゃなくて、本当に私たちは明日もミーティングあります。それでも、この問題を話すと思います。それも別の名前使ったほうがいいです。それはもうイスラム国じゃなくて、ダーイシュとか **ISIS** とかそのまま使ったほうがいいじゃないかと思ってます。以上です。

<店田> ありがとうございます。**ISIS** とかその後の問題うんぬんっていうのは、この場で共同署名どうのこうのとかそういう問題ではありませんので、それはまた明日以降何かあるようでしたら、そちらの場で議論いただければと思いますので。この場ではあくまでも、先ほど小中学生の問題としていろいろ、いじめと言いますか、それに類するようなことがあったということで。それについての話題ということで、マَسジドとしてそれに対応するような場面というのもあるような気もするんですけども、それはどうなんですか。

マَسジドとして、例えばあるいは私はヤングムスリムの方で、3人の方が先ほどお話ししていただいたんですけども、自分が育ってきた過程を振り返って。先ほど羅者さんは父親の強い姿勢に助けられたというふうな言い方をされてたんですけども。マَسジドっていうのは場面と言いますか、生活のプロセスの中で何か重要な意味を持つ場であったとか、あ

るいは何か自分の助けになったとか、そういうことはありましたでしょうか。その辺りちょっとヤングムスリムのご報告をしていただいた方で、何か発言いただけることがあったらお願いしたいと思いますが。大辻さん。

<大辻> マスジドとして何ができるのかは分からないんですけども、私とかは例えば高校もそれなりの高校に行かせてもらったし、自分で言うのもあれなんですけれども。大学も早稲田っていう国際色豊かな大学にいつつも、やっぱり改宗したときには友人に、「えー、なんで」とか「豚肉食べないんでしょ」とか「お酒飲まないんでしょ」みたいな、「ぶっちゃけ前飲んでなかったの」とか。結構本人たちは、悪気はなくてもガンガン突いてきた一言とか、あるいは人によっては若干嫌味ではないですけどもそういう言い方をする方も出会ってきましたし、教授とかですら出会ってきたことがあるので。

先ほどのお話を伺って、もっと下の学年の子たちが学校とかで、それこそ日本人の人はそこまで悪気はなくからかってるだけなんですけれども、言ったことに対して傷付く気持ちは大きくなった自分でも感じてるから、それよりもっと大きいものがあると推測するので。そのケアっていうのはどうやっていったらいいのかっていうのは、前から個人的に考えてはいるんですけども。でも子どもとか友人でもからかったりとか言いたくなる気持ちも分からなくはないので、本当に私も皆さまからこうしたらいいんじゃないかとかあったら伺いたいと、自分も思っているっていう感じです。

<店田> ありがとうございます。羅者さん、何かございますか。マスジドというものに対して。

<羅者> マスジドのことですと、自分も最初は小さいときはさっき話したとおり、自分の信仰に自信が持てる前までのときのことは、無理やりでもお父さんとかに兄弟そろって連れて、言うのも変ですけど、行かされてたと覚えています。もう行かされてたって思ってる時点で、自分には行きたくないとは思ってたと思います、最初の小さい頃は。自分の宗教とかハーフであることとかに自信を持てるようになってからは、苦にも思わないし、別に自分1人で行ったりもします。なので、気付きとかですかね。自分に自信を持って、その宗教を信じてやっていけるってなれば、そこに苦はないと思います。

実際自分も、今だと何人かいるんですけども、同じハーフで同じムスリムだっていう高校生とか中学生ぐらいの子がいるんですけども、皆行きたくないっていう子もいるし。何かのプログラムがあって若い子たちのために場を設けて集まったりもするんですけど、行きたくない子は結局お父さんが無理やり連れてきても、友達同士でどっか行っちゃったり、結局話聞かないで携帯いじったりみたいなものがあるんで。最初のうちは無理やりでも連れてくることは必要だと思うんですけど、あとは本人の気持ち次第だと思うので、ちょっと難しいですけども。あと本人が気付けるかみたいな感じだと思います。そのために

いろいろやるとか大切だって思います。以上です。

<店田> ありがとうございます。林さん、何かございますでしょうか。

<林> 私がこれから言うことちょっと新たな議論を呼びそうな気もするんですけど、正直言って Masjid、私はあんまり通ってなくて。ムスリムになってすぐはやっぱり私、独身生活長くて9年10年続いたので、家庭とか外では1人でムスリムとして戦っていくみたいな時間が長かったんですね。それでやはりムスリムと会って癒やされたいみたいなのを求めて、Masjidに何度か足を運んだんですけど。いろいろあったのかもしれないですけど、あまり仲良くなれる感じでもなく、特に女性は押し込められてみたいなイメージが強くて、あんまり居心地がよくなかったり。女性の部屋にいらっしゃる女性も知り合い同士で固まってゴシップ言っていたりとか、あんまり私が入りたいっていう雰囲気を感じてはなくて、そんな感じでだんだん足が遠のいてしまったっていう感じがあるんです。

その解決っていうか、よくするのはとても大変なことだと思うんですけど、自分が子どもを産んだら、やっぱりムスリムの友達を作ってほしいと思うし、子どもが自信を持って気持ちよく通える所があったらいいとすごく思っています。すみません。

<店田> ありがとうございます。Masjidそれぞれの方の成長の過程でどういう力になったのか、あるいは父親なり、家族の方が力になったり、あるいは友人のかたがた。いろいろ人によってももちろん違いはあると思うんですけども、Masjidというのが今後どうなっていくかということも、ヤングムスリムの将来というのを考えた場合には一つの考えておくべき問題点だと思います。

ちょっとまたサラさんが先ほど提起した問題に少し戻りたいと思いますけども、いろいろこの場でそれに対する解決策が見えてくるのはすぐには難しいです。あるいは、個人力でどうしようもない側面というものもあると思いますけども。ただわれわれが声を発すると言いますか、何らかの意思表示をしていくというふうなことを考えた場合に、一つウェブページというのが世の中に対して、いろんなイスラムの方が発信している場としてありますけれども。そのようなものが有効な手だてとしても使える部分もあるのではないかと思います。例えば浜中さんが「イスラムのホームページ」としてかなり大きなものを長年やってらっしゃいますけども、そのあたりを使う手だてって言いますか、何かアイデアないでしょうか。

<浜中> そうですね。「イスラムのホームページ」もう十数年やってるんですけども、以前相談室とかいうの開けてたら、非常にたくさんの相談が来て、それにずっと答えをやってたんですけども。あまりにも忙しくなったんで相談室っていうのは一応閉鎖して、最近僕のホームページはあんまり更新もせずにお役に立ってないかもしれないですけど、そ

れよりは SNS とかそっちのほうに移っていったんですけど。でもウェブページの中で図書館のように整理していろんなことを置いとけば、何かそれを読んでくれて参考にしてもらってるみたいです。ときどきメールが来て読ましてもらって、イスラムのこともっと勉強したくなりましたとかいうようなのが来てますんで、少しは役に立ってるかとは思いますが。

僕みたいに田舎のマスジドにいますと、結構マスジド運営は暇なほうなんで、どうしてもそっちのイスラム社会に貢献できるとしたら、ウェブで少しは活躍するぐらいしかないのでそうしてるんですけど。ちょっと話違いますが、僕のマスジドのことで言いますと、マスジドに通ってくる人たち、ときどきお悩み相談みたいな感じでよくうちのマスジドに来ることがあります。「こんな問題がある」とか子どもがいじめられるとかいうのは、確かによくあることで、子どもを交えて相談したりとかいろいろやってるんですけど。なかなか田舎のほうですとイスラム社会っていうのもないし、イスラムに対する理解っていうのも、先生がたもあんまり東京とか名古屋に比べれば少しレベルが低いかもしれないとは思ってますけどもね。それなりにいろんな問題を個別にやったりしております。

愛媛県は新居浜以外にあと松山にもマスジドがありまして、松山のほうは大学がありますんで外国人の子女とか結構たくさんいて。毎週日曜日に日曜学校みたいな形でコーラン学習とか勉強会もやってて、それはほとんどもう都会のほうと一緒にだと思いますけれども。両方のマスジドいろいろ問題が起きたら、常に相談に乗りますというような形で一応運営はしております。

<店田> ありがとうございます。

<浜中> もうちょっと話させてもらっていいですかね。それと羅者さんのお話の中で、若いときに無理やりマスジドに連れて行かれてっていう、あれ非常にうれしく思っ。僕自身の子どものこと、あんまり子どもにしっかり僕教えなかったんですけど、確かに若い頃子どもたち並ばして強制的に礼拝させた時期があったんですね。子どもたちが中学校高校になってくると、反抗期になっていつも逃げるんですよ。僕も仕事が忙しいのもあるんですけど、礼拝時間になったら逃げていくっていうような感じで、礼拝やってなかったもんで。学校行ってもイスラムっていうの表に全然出さなかったと思うんです、うちの子どもたち。何とか育ってもやっぱり若いときに強制的に礼拝させたことは後になってよかったかと思っ。成人したときに「お父さんちょっとイスラムの勉強もっ。としたい」とかいうような形で本を読んだりっていうようにイスラムを求めるようになってくれて。非常に喜んではおりますが、まだレベル的には低くて、さっきのお三方みたいな立派なムスリムではないんですけど、今後徐々にいいムスリムになっていってくれるんじゃないかと期待しております。

<店田> ありがとうございます。先ほど名古屋のクレシさんの息子さんのいろいろな体験に基づいてのお話をしていただいたわけですが、全国各地に恐らくそれと同じようなことが存在しているでしょうし。また現在、小中学生の子たちに対しても、いろんな場面とかいじめや嫌がらせのようなことが起こっているようなところも実際にあると思います。そうした中で、 Masjidとして対応するような、もちろんご家族でということだけでは立ち行かない場面も出てくるような、非常に大きなものになりつつあるようなところが現在あるよだという気がしますので。 Masjidとしてそれに何か意を用いてるようなところはございますでしょうか。どうぞ、クレシさん。

<クレシ> 先ほどの羅者さんもサフィーヤさんも、皆3人とも話してくれたんですけども、やはり難しいところ、モスクに行くことも難しいと思うんですけども、大変だと思うんですけどね。出会いのできやすい場所にしてくれれば、なんか楽しくなればいいと思ったってことをおっしゃったんですけども、モスクとしては日本にモスクがなくて、私たちみたいにここは別世界だったんですよ。自分が東京に住んで（録音不良）移動して名古屋に行って、そこはモスクがなかったんですよ。僕は集団礼拝、金曜日礼拝するために毎週神戸まで行ってたんですよ。

それがきっかけで話し合いして、名古屋でもモスク造ろうってことになって、それでモスク造ったんですよ。だから今、モスク造った状態が精いっぱいのことだと思います、私たちには。モスクは精いっぱいのことをやっておいて、やりながら、子どもたちの面倒や子どもたちの考え方や皆、どうやって守っていけるのか。皆さん、どうやって（録音不良）。それをずっとやってきてるんですね。これがその役割もって働いて、もっと詳しくそれをやっていきたいと思ってますから、これからできたらもうさっきサラが言ったようにデモの会というのが外に出て、子どもたち恥ずかしい思いにならないようにしていきたいと思います。私たちもモスク代表としては集まって、こういうことがあってやっぱりしっかりやっていかなきゃいけないから、子どもを守るのは私、親しかないので。

ムスリムとしては、子どもが逃げ場がなくて困ってると思うんですね。だからそれでやっぱりモスクとしては、私たち僕もそうだけど非常にこれから具体的に動こうと思うんですけども、デモ、外に出てやるのは絶対やめたほうがいいと思いますね。それからモスクの中で言うと、入って行って子どもたち楽しくなるようにそのぐらい場所もないです、私たちは。それぐらい大きな場所があれば、そういう場も造ると思うんですけども、その場所もないんですね。できるだけ精いっぱいのことやっていってる、本当は足りないと思うんですけども、これからはもっと頑張っていきたいと思いますが。皆さん次に会ったらよろしくお願ひします。

<店田> ありがとうございます。あらためて名古屋のサラさん、それから息子さんのアキール君。ありがとうございます。あらためてお礼申し上げます。それで時間のほう

はもう総合討論の時間に入ってきましたので、フロアのほうからもいろいろ発言があると思います。パネリストの方、それからサラさんも含めて、それからヤングムスリムで3人の方も含めて、総合討論という形にしていきたいと思いますので。挙手していただいて、所属とお名前をいただいてからお話をさせていただければと思います。まず挙手をお願いいたします。じゃあ、メイモンさん。今、マイク持ってきます。

<メイモン> メイモンと申します。来日して四半世紀、生まれて半世紀以上たってますが、いろんなきょうの話についてコメントとかさせていただきたいと思います。きょうは第7回の Masjid 大会ですが、7回のうちの5回か6回私が出てまして、最初は司会とかをやらせていただいたり積極的に参加してはるんですが。毎回いろんなトピックがあるんですけど、一つ共通して言えるのが Masjid の横のネットワークがないというのが大体毎年話が出るんですよ。ですから、いろんなトピックでやって、きょうはヤングムスリムだった。前は違うトピックだったけど、どんなトピックであっても問題解決のやり方の一つでは横のつながりが必要かというような話が出ます。ですから、それを何とかしていただきたいです。

実際日本で80カ所から100カ所ぐらい Masjid あるんですが、横のつながりがない、クレシさんがおっしゃったスペースがないとかいろんな理由があるだろうけど。運営しているかたがたのビジョンがないという場合もあるんですよ。ビジネスマンとか労働者で日本に来て、それで必要に応じて Masjid 作ったのはいいんですけど、実際 Masjid どういうふうに運営するべきか、国際問題に対してとか、ナショナルの問題に対してどう解決案を考えるべきかというビジョンがない方々もいるし。自分の仕事で忙しいということもあるんですから、実際は Masjid はお祈りの場だけになってしまっているというのが多いと思います。

子どもたちのコーランの勉強にはなるけど、本当に子どもたちの憩いの場にはなってない。それは何とかしなきゃいけないかというふうには思います。あといろんなきょうヤングムスリムに対してのトピックが出たんですが、私は子どもがまだ幼稚園も行ってないですから、その経験はないけど、皆の話を聞いてると、やっぱりムスリムだからという差別とかもあるでしょうけど、もう日本で、あるいは世界中で見てもいじめとかそういう問題は別にムスリムじゃなくてもあるんですよ。だからいろんなことで現実を認めなきゃいけないと思いますね。すぐ関連付けはできないと思います。ムスリムだからいじめを受けてるとかじゃなくて、それ以外だって日本の学校でいじめを受けて自殺する子もいるし。だからこういうことしたからこういう結果になった、多分人間がいる限り差別とかそういうことがゼロに向かって頑張る必要があるけど、ゼロにはならないということも承知しなきゃいけないと思いますね。

それを認めて自分の一つの意見ではなくて、いろんなことを探る。その時代によって、いろんなやり方がまた違うと思うんですが、横のネットワークがあれば探ることができる

かと思います。具体的に一つ、サラさんがおっしゃったことはほとんど同感しますが、特に現実的にやられてきたものですから。でも最後のことだけ私、反論させていただきます。大きなデモが、もちろんだんなことでもプラスの面とマイナスの面があるんです。大きなデモによって子どもが傷付く場合もあるだろうけど、大きなデモじゃないと解決にならない問題もあると思いますね。

やっぱり病気によって薬あげるか、注射するか、手術するかいろんなことがあると思いますね。手術は大変痛いことですが、病気によって必要である。ですから大きなデモも、実際言うと私、東京新聞の前 2 回ぐらい大きなデモがあったから、東京新聞が取材することになったと思います。私の勘ですが、多分デモがなかったら取材もなくて、これからも続くような状況だったと思います。マイナスの面もあるけど、必ずしもこのデモによってこういう起きたというのはいえないと思います。いろんな書面を集めてとかそういうやり方もあるけど、それで問題解決しない場合もあると思います。力を付ける必要、注射で問題解決しないなら手術するというような感じも必要だと思います。

あと最後にもう一つ、先ほどの 3 人のヤングムスリムの発表があったと思いますが、その中で私も半世紀生きてて、そのうちの 25 年日本で暮らしてるんですが。それでも私もいろんなことやってきてるけど、私の勉強になったのが最後の方、多分林さんだったと思いますが、最後の部分で、非常に私の勉強になった部分が感謝のことと思いますね。イスラム教がマイノリティーの日本ですから、物事を言うときは権利ベースではなくて基本的にはお願いベースというのが、私の心を打たれたということですね。先ほどからも言うように、全てがお願いできない場合もあるんでしょうけど、基本的な姿は私も権利ベースでやってきてるんですよ、今まで日本で生きてて。いろんなこと、役所とかメディアとかいろんな所で、もうこれが人間としての権利であるというような感じでやってきたんだけど、そうじゃなくて、お願いベースも必要かというようにちょっと勉強になったんですね。

あといじめの問題とかなんかで言うと、一人一人の問題じゃなくて個別にあるんですよ。多分学校でいじめられたら、私がハーフじゃなくて普通の日本人だったらよかったのにとおもうかもしれないけど、親は親で国際結婚する権利はあったんですから、もうされたんですね。ですから、これはこうじゃなかったらよかったとか希望だけでは問題解決にならないから現実を受け入れて、それでどう強く対応できるか。そういう子を育てるしかないと思いますから、そのやり方はそれぞれの、多分 20 年前は違うやり方だったでしょうけど。今の世界は違うやり方、ですからそのときによって小回りが利くような、でもマスジドのネットワークがあったほうがいいかと思いますね。

私の夢は、もちろんそれに向かって努力もしますが、日本ムスリム連盟が必要だなということ。全ての日本のマスジドと全ての人の団体が一つ、ルーズネットワークでもいいけど連盟的なことで。場合によっては個別に対応するけど、場合によっては皆一緒に考えるというようなネットワークが一つ必要かというふうに思います。以上です。

<店田> ありがとうございます。今のメイモンさん、コメントすべき点が幾つもあったような三つか四つあったような気がします。いずれについてももちろん構いませんが、コメントのある方。

<タヒル> 最後の話ですけど、一つのオーガナイゼーションとかそのような何とか作れば一番いいですけど、それは日本だけじゃなくて、他の国にそのようなモデルが見れば、それは上からじゃなくて、下からの作れば多分一番いいじゃないかと思ってます。なぜというのは、例えば今は九州に 5 つぐらいそのようなモスクがありますけど、そこにあとは皆がコミュニケーションいつもしますんで、それでは向こうのオーガナイゼーションはもう **not a formal organization**、でも例えば別府から 1 人とあと福岡から 1 人と、そのような **cooperation** みたいな何とかしています。九州にもありますけど、あとは大阪とか東京とか札幌、そのぐらいで別々なサブオーガナイゼーションを作れば、あとそのサブオーガナイゼーションから 1 人があって、一つの何とか多分そのようなモデルは **feasible** じゃないかと思っています。一つは上からじゃなくて、下から、多分そのようにすればできると思います。

<店田> そうですね。 Masjid のネットワークについては、以前もこの場でも話をしたことがありますし。それについて、前野さんにご報告お願いしたこともあります。ただちよっと時間の関係で、きょうはこのお話はこのぐらいにさせていただかせて、他の論点についてコメントがある方がいらっしゃいましたらぜひお願いしたいと思いますが。いかがでしょうか。

<永井> せっかく打ち切られたのに蒸し返しますけども、モスクの横のつながりってのはこんなものはそれぞれ違うんですよね。例えば大塚 Masjid がマーケットを出していきような、なんでそんな活動できるんですか。これは山手線の駅に近いからです。私にはそれ以外ないんですよ、理由はね。そうすると、そうでない田舎にある Masjid と何かって言ったってできっこないから、それぞれの Masjid がそれぞれの特徴を持って活動するしかないのかと。

それから今度きょうは若い人の問題ですから、若い人たちが自分たち自主的に会を作つて、そういう機運はないんでしょうか。私はそういうものをむしろ期待します。

<店田> ネットワークの問題はちょっと置いて、後半のほうで。若い人たちが自分たちで何かをやるという機運はないんでしょうかという問い掛けみたいなものがありました。

<山下> 東京大学の山下です。ムスリムではないですが、ヤングムスリムにやや年代が近いということで、私がこれまで行徳のほうで少し言葉の調査をさせていただいたことがあって、少し関係のムスリムの若い人たちとも接する機会があって、思ったことを述べさせていただきます。先ほどモスクになかなかコミュニティーというものがあまりうまくできてない、若い世代が何となくいられるコミュニティーが少ないって感じて。他の外国の例を考えてみると、例えばイギリスとかだと圧倒的にムスリムの数が多いということがあって。

あと他にはムスリムじゃないんですけど、インド系だったらクジャラーティー語を教える補習校、イギリスでは日本人だったら日本語を教える補習校、そういう所で宗教の深度って言ったらかおもしろいかもしれないけど、深度に関係なく似たような関係の人たちが何らかの形で集まることあったりして。あとイギリスの場合は特に南アジア系の人の場合は、バングラっていう音楽が人気で、そこだと親が例えばモスクに行かないようなおうちでも、親がモスクに行くようなおうちでも、少し聞いてたりして、そういった所でつながりができるんですが。日本ではなかなか宗教を勉強するっていう以外のそうしたつながりができづらいんじゃないかと思いました。そういうところがなかなか多様な家庭で皆、若い人たちがバラバラになってしまう理由なんじゃないかと思っていました。

一つ特にマスジドの代表者の方々に、少し教えていただきたいというか、今後の検討事項としてほしいと思ったのが、私が言うのも何なんですけど。SNS の使用について、イスラム的にどのような SNS の使用がいいか、もしかしたらもう既にどっかで公開されてたり、教えられてたりするのもかもしれないんですけど。そういったことについて、どのように考えたらいいかっていうのが、私の質問の一つで。

SNS で例えば、最近是在日コリアンに対するヘイトスピーチが盛んで、SNS を通じてすごく差別的な発言が検索しやすくなっている。そういったこともありますし、でも逆に個人レベルで SNS のおかげで、アッターをたたえる写真とかクルアーンからの引用とかを Facebook とか Twitter とかで流して。それをもって若いムスリムの人たちが普段の、普通の生活のこともアップするけど、イスラム的なものを少しアップすることによって、自分のムスリムの友達にも、ムスリムでない友達にも何となくそういったイスラムについてアピールしたり、ちょっと関心を持ってもらうきっかけを作れているんじゃないかと思って。

もろ刃のつるぎなんですけど、そうしたことについてマスジドの代表者の皆さんはぜひ若い人たちにどのように SNS を使用してるかとか、もう少し効果的な使用法がないかと。特に日本だとバラバラに皆、ムスリムの若い人たちが暮らしているので、SNS の形でもっと双方向的に雰囲気ができたらと少し思いました。厚かましくて、すいません。

<店田> ありがとうございます。今のお話に関連したものでも構いませんし、先ほどメイモンさんが上げたようなデモのことも、もちろん構いませんが。

<アキール・クレシ> モスクに子どもが本当に行きやすくしてほしいですよ。僕が行ってるモスクでは土曜日に毎週お茶会っていうのが、前言ったと思うんですけど、そこで同じムスリム同士友達がいっぱいいて。自分の学校ではないじゃないですか。いることもあるかもしれないですけど、あんまいなくてムスリム 1 人なんですよ。いろいろ質問されたりして、答えられないじゃないですか。それで逃げたりするんですけど、相談することも親にはできないことができたり一緒に遊べたりするし、ご飯もハラールショップとかいろいろ行って食べることもできるし。だからムスリムの友達、最近本当にうれしいんですよ。僕が行ってる所ではサッカーしたりお父さんがテーブルで卓球場を作って一緒に遊んだし、いろいろ話し合ったりしてすごい楽しかったんですよ。そういう所をもっと増やしてほしいです。他のモスクの所もそういう場も時間もあるとうれしいです。

<アミン・クレシ> 何度もすいません。名古屋モスクばかりで本当に申し訳ないんですけど、僕も前からというかずっと思ってることが一つありまして、さまざまなモスクに僕行って来たんですけど、アプローチの部分が、先ほど林さんもおっしゃってたように、また行きたいと思うモスクと、もうここには来たくないと思うモスクが、正直僕だけじゃないと思うんですけどはっきりしてまして。また行きたいと思うようなモスクの例で言うと、初めて行ったときにものすごくなじみづらいというか、コミュニティーに入りきれないというのがよくありまして。

日本だけじゃないですけど、パキスタン系のモスクだったり、ここはそれ系のモスクだとか、何とか系っていうのもよく耳にするんですが。例えば、パキスタン系のモスクだったらパキスタン人以外の方が初めてそっちに行ったときに、全然コミュニティーに入れてもらえず、ただのお祈りする場になっていると。他のパキスタン人が行くと、そこはもう皆話し合ってるワイワイしてる、ウルドゥー語で皆で仲良くして礼拝場以外の役割も果たしているのに対して、そこになじみづらい人たちもいて。

また来たいと思うモスクは、逆に例えばいわゆる言い方が悪いですけど古株的な存在の方だったり、モスクの代表者の方だったりとかが初めて来たムスリムだったりとかに、積極的に声を掛けてくれるという。僕もたまに行ったモスクとかで、「初めてだよ、どっから来たの。ムスリムなの。お父さんパキスタンなの」とかすごい話し掛けてくれて、「この人もハーフなんだよ」とか紹介してくれる代表者の方だったり、古株の方だったりとかがいる所には本当にもう通いたくなるっていう気持ちがあったので。ぜひ他のモスクでもやっていただきたいってすごい個人的な感想です。すいません。何度も。

<店田> ありがとうございます。それぞれのモスク代表の方に、答えていただきたいところがいろいろあります。

<前野> まさに今を生きる若い人の話を伺って、ありがとうございます。アキールさ

んとアミンさん、ありがとうございました。これからも大いに参考にさせていただきます。私には、君たちよりも若い子がおりますので大いに参考になります。もう一つ山下さんが問われていた SNS のイスラム的な使い方に関しての若者への助言とかガイドライン的なものっていうのは、一例としてお伝えしますが、イスラミックセンタージャパンでは子ども向けのそれこそヤングムスリムを対象にした合宿の機会に、そのような特別な研修時間を持ちましたね、浜中さん。いかにもろ刃のつるぎであって、ムスリムとしてはどう付き合うべきなのかとそういったお話をしましたし。プラス、どこでしたっけ、au でしたっけ。会社の宣伝しても仕方ないんですけども、どっかの携帯会社のそれこそ担当の方に来てもらって、SNS でもメリットとデメリットについて専門の人に若者向けに話をしてもらったということもあります。発展的な使い方、より大きなネットワークの構築についてのご意見は非常に参考になりますのでありがとうございました。

<店田> ありがとうございます。他に。永井さん。

<永井> ちょっと勘違いしてもらっちゃ困るんで、申し上げますけども。日本のムスリムたちがバラバラなのかってことじゃなく、そうではありませんというお話だけさせていただきます。例えばラマダンを始める日はいつですかっていう、これは日本で一つにやっています。っていうのは何かっていうと、それぞれイスラムの団体マスジド以外ありませんけども、そういう人たちが電話その他で情報交換して一つになるように行っている。またそのときに会議を開くんですけども、その場所を今のところ関東圏になっちゃってますけども、限られてますけども、いろいろマスジドを会場にして会議を開こうということで、いろんな人がいろんなマスジドを実際に訪問できるっていう機会を作っております。それによってむしろ私なんか感ずるのは、それぞれのマスジドが立派にやってるっていうことですね。それを知るという、まずできるという機会があるということだけお伝えしときます。

<浜中> SNS に関してちょっと言ってもらいますと、マスジドに集まるっていうのはなかなか敷居が高いっていうのが実際にあるんですね。結構信仰熱き人ばかりが集まってて服装をしっかりとすると、そこに気安くマスジドに行くことができないとかいうのでちょっと遠のくっていうのが実際にあるんですけど。SNS だったら結構、誰でも気軽に入ってこれるので、それを上手に使えばいいと。ウェブサイトもそうですけど、ウェブサイトもちょっと上手に作れば誰でも来て、必要なものだけ読んでいく。SNS はもっとそれよりは活動的なんですけど、SNS でも例えば Facebook だと結構年齢制限があるんですね。成人だけじゃないといけないけど、Twitter だったら誰でもオクケーみたいな感じで。Twitter あたりで作ってどんどんつぶやいていって広げていく。で、参加者を募っていけばもっと気軽にムスリムたちが寄っていけるかと。そんで、イスラム知識とか少し得て、それから自信つけば自分もマスジド行ってみたいというふうになるとそういうように感じ

ますけど。だから非常に SNS の使い方っていうの上手に使える、今のイスラム社会に大いに使えるんじゃないかと思います。

<店田> ハルーンさん、最後の最後に何かありましたら。

<ハルーン> 私の言おうとしたこと先生が先ほど申し上げて。8割から9割の子ども、またはヤングムスリムがモスクに来ないんですよね。それが一つの事実です。ご両親は親がそういう気持ちはあるんだけど、子どもを素晴らしいムスリムにさせたい。だけれども、正直忙しくて努力が全然足りない。それは一つの残念な事実ですけども、そういう事実の中で先ほど山下さんがおっしゃったように SNS の役割もあるし、きょう山下さんの言葉を聞いて、初めて気付いたところですけど。本当にそれはこれから、実はきょうの夜かまた明日代表者たちのミーティングもありますので、これからも考えたいと思います。

もう一つはマスの役割について、結婚についてです。私自身もそうですし、マスの代表のアキールさんの紹介でお見合い受けて結婚してるんですけど。先ほども若い人たちに結婚の話も出たんですけども、それもやはりマスのつながりがあれば、一つの活動としてマスができること。もちろん個人的にハサン中田先生とか他の人もやっていますけど、一つのマスの役割になることではないかと思います。以上です。

<店田> ありがとうございます。もう終わりの時間を過ぎてしまったので、一応ここでパネルディスカッションは終わりにしたいと思うんですが。きょう、出てきた一つはヤングムスリムの3人のお話にあったような将来に向けた希望の見えるようなお話と言いますか、希望というふうな形でまとめられるような部分と。もう一方では今、現在のいろいろ状況を見ても分かるようなムスリム、あるいはイスラムということで偏見にさらされるような雰囲気。二つの側面があります。このお話の中でもそういうものが出てきましたけども、この場でそれをまとめるということはもちろんしませんけれども。

われわれが将来に向かって日本とイスラム、広い意味でのイスラムというものを考えた場合に個人、あるいは家族、父親であったり母親であったり友人であったり、そしてマスという組織も大きな役割をこれから将来のムスリムコミュニティを考えていく場合には果たしていくべき主体であるというふうに考えられますので。今後、明日また代表者の方々がお話があるということでしたので、そういうことも含めて話していただければと思います。いろんな人というもの、あるいは先ほどから話題になってきた SNS とかネットというものもさまざまなツールとして使いながら、将来のムスリムコミュニティのあり方というものを、ムスリムの方もそうですけれども、少なくともここに参加していただいた非ムスリムの日本人の方についても、日本とイスラムということについて考えていただければと思います。

別にまとめようと思ってまとめたわけじゃありませんが、そういうことを感じた次第で

す。じゃあ、時間になりましたのでパネルディスカッションは終わりにしたいと思います。
パネリストの方々、どうもありがとうございました。

<吉村> それでは店田先生、パネリストの皆さん、どうもありがとうございました。それでは最後になりますが、閉会の辞を早稲田大学イスラーム地域研究機構長桜井啓子先生より承りたいと思います。お願いします。

<桜井> 最後に簡単にごあいさつをさせていただきたいと思います。本日は長時間にわたりまして、皆さまから貴重なご意見やいろいろなご報告をいただくことができまして、大変に勉強になりました。どうもありがとうございました。きょうのテーマというのは、ヤングムスリムということだったんですけれども私、皆さまのお話を伺っていて一つ思ったことがありますので、それをちょっとだけ最後にお話ししたいと思います。

ここに今、座られたモスクの代表の方々っていうのはいわば第 1 世代、ファーストジェネレーションの方だと思うんですね。多大な努力で 80 にも及ぶモスクを造られ、皆さまはそれぞれの場所で要するに自己形成をして、そして日本に来るとかあるいはイスラムに改宗するとかっていうことで主体的に選択して人生を切り開かれた方だと思うんですね。そういう方たちのお話もすごく重みがありましたけれども、次にヤングムスリムの方たちのお話を聞いてるときに、第 1 世代と第 2 世代の間にはものすごい大きなギャップがあると思ったんですね。

つまり何かと言いますと、第 2 世代の方たちは例えばここに登壇された 3 人の方たち、皆さん素晴らしかったですけれども、3 人の方の親御さんたちと 3 人の方たちの人生の経験は全く違うものなんです。大辻さんのご両親はムスリムではなかったわけですね。まさか自分の娘がそういう選択をする、あるいは林さんがそういう選択をするというふうには、多分ご両親は考えずに育てられてお子さんは別の道を歩まれたし。羅者さんの場合だって、お父さまは自分の祖国で育てて自分の選択でここにいらして、だけれども育った息子は全くお父さんとは違う環境で育て。そういうことを考えると非常に分かったことは、これ多分ムスリムだけの問題ではなくて世代の問題だと思うんですけど。

私も子育てをしましたがけれども、親がしてあげられることは、親はなんでもしてあげられない。つまり、あらゆる問題を子どもが行く道にふさぐであろう全ての問題を取り払って親はしてあげたいと思うけれども、それをしてあげることができない。親ができることは見守りで、あと子どもが自ら問題を解決するのを助け支えることしかできないっていうのが、非常にはっきりしてるんじゃないかというふうに思いました。日本の学校というのはサラさんがおっしゃったように大変に閉鎖的な空間で、早稲田では私みたいに普通に日本で育った人を純ジャパって言うんですけれども。子どものときに海外から帰ってきたときに、ものすごくいじめられました。ちょっと異質なものと、それをからかいの対象にするっていうのは日本の学校空間の長い間続いた伝統であって、なかなかそれを親が

全部取り除いてあげることができない。

自分の子どもが泣いて帰ってきてても、その問題を全部解決してあげることにはできない。普遍的な問題が、ムスリムだからある問題もあるけれども、普遍的な問題もここで実は多くきょうは語られたんじゃないかというふうに思います。あまり解決にも何にもならないですけど私は今、大学という場にいますけれども、やっぱり年取った世代の責務としては見守り応援し、そして、現実的な若い世代が本当にこうなりたいと思うようなロールモデルが育っていくこと、そこに希望がある。第1世代って言うんですか、上の世代は育った地盤が違うのでロールモデルにはなり得ない、ある意味。モラルサポートはできても、じゃないかということをきょうはすごく感じました。いろいろ学ばせていただいた午後だったと思います。どうも皆さま、ありがとうございました。

<吉村> 桜井先生、どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日のプログラムは全て終了いたしました。前半後半ともに、非常に充実した会になったと思います。あらためまして基調講演をしていただいた前野さんと報告をしていただきました羅者さんと大辻さんと林さん、そしてパネリストの皆さんと、あとムスリム素人劇団アヒッバの皆さんにあらためまして拍手をお願いいたします。これにて本会を終了させていただきます。ありがとうございました。

あと事務的な連絡でございます。一つ忘れ物がございましたので、こちらのマフラー心当たりのある方はスタッフのほうまでお声をお掛けください。もう一つ毎年行っております記念写真を撮りますので、すいませんが代表者の方と発表者の方、あとは写りたい方はどなたでも参加していただければと思います。写真は報告書に掲載いたしますので、カメラ・シャイの方はご遠慮いただければと思います。

(完)

写真と配布資料



会議終了後の集合写真

第7回 Masjid 代表者会議「ヤングムスリムの将来設計 ―学ぶ・はたらく・生きる―」

2015年1月31日(土)

基調講演『イスラーム的視点からのキャリア計画/ Islamic Perspective of Career Planning』

行徳 Masjid: 前野 直樹(アブーハキーム・アハマド)

会社員、イスラミックサークル オブ ジャパン日本人部代表

【第1部: 講演】

- ① 出発点はどこ? / Where do we start?
- ② キャリアとはなにか? / What is Career?
- ③ イスラーム的視点とはなにか? / What is Islamic Perspective?
- ④ 重大キャリア選択/ Critical Choices for your Career
- ⑤ 選択するときに必要なこと/ Important things when you make decisions
- ⑥ ムスリムのキャリアを邪魔するもの/ Obstacles against Muslim career
- ⑦ クルアーンの助言/ Advice of the Qu`ran
- ⑧ 預言者ムハンマドさま(祝福と平安あれ)の助言/ Advice of the Prophet Muhammad (S.A.W.)
- ⑨ キャリアの命運/ Future of your career

【第2部: ムスリム素人劇団アヒッバ(信愛の友)による寸劇】

「ヤングムスリムのキャリア計画とロールモデルの巻」

登場人物と配役

- 1- ヤングム・スリム: ムスタファ角岡さん
- 2- ヤングム・スリムの親: ハナーン角岡さん
- 3- サフィーヤ先生: サフィーヤ林さん
- 4- ターリク先生: ターリク・ファトヤーニさん
- 5- ナレーター: アブーハキーム、第4幕はサフィーヤさん
- 6- 案内人: ターリク・ファトヤーニさん
- 7- 自称カリフ国シャイフ: アブドゥルマティーン・ホワイトさん
- 8- リーマンシャイフ: アブーハキーム前野
- 9- チンピラ: ターリクさんとアブドゥルマティーンさん

構成

- 第1幕 新高田馬場イスラーム大学附属高校2年3組の親子進路相談会で
- 第2幕 大学の講堂で
- 第3幕 自称カリフ国シャイフと
- 第4幕 リーマンシャイフとそれぞれの道

「ヤングムスリムの将来設計-学ぶ・はたらく・生きる-」第7回全国マスジド（モスク）代表者会議の記録

2015年12月28日発行

編者 岡井 宏文・店田 廣文・小島 宏

発行所

早稲田大学アジア・ムスリム研究所

早稲田大学多民族・多世代社会研究所

早稲田大学イスラーム地域研究機構

〒162-0041

東京都新宿区早稲田鶴巻町513番地

早稲田大学120-4号館3階

TEL: 03-3203-4748 FAX: 03-3203-4840

ISBN13 : 978-4-908428-01-2